

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高年者クラブ助成事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	高年者クラブ助成事業費(16-15-33-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	33年度	根拠法令等	荒川区高年者クラブ助成金交付要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
目的	区内各地域において、ボランティアや健康増進等の活動を行っている単一高年者クラブ及び高年者クラブ相互の連絡調整等を行う連合会に対し、その運営費の一部を助成することにより、高齢者福祉の向上に寄与する。				
対象者等	高年者クラブは、概ね60歳以上の者、50人以上で構成する。連合会は、区内単一高齢者クラブで構成する。				
内容	(1)単一高年者クラブへの助成 ・基本助成金 人数割 クラブ数は20年度実績 100人まで 21,000円(31クラブ) 101～150人 22,000円(38クラブ) 151～200人 23,000円(12クラブ) 201人以上 24,000円(0クラブ) ・特別助成金 1クラブ 80,000円 (2)連合会への助成 1,890,000円 高年者クラブ連合会事務費補助 810,000円 姉妹・友好都市との文化交流会 300,000円 会長研修会 380,000円 運動会助成金 400,000円 *社会福祉協議会・東京都老人クラブ連合会からの補助もあり (3)高年者社会奉仕団助成金 100,000円(チューリップ花壇整備) (4)高齢者スポーツ普及事業(NPO高年者クラブ連合会へ委託) 274,850円(平成19年度) グランドゴルフ、ペタンク、輪投げの指導者講習会(審判員の育成)・競技会の運営				
経過	・単一クラブには昭和33年度から、連合会には昭和37年度から助成 ・平成10年度 それまで社協が実施していた特別助成金を高齢者福祉課に移した。 ・平成12年度 高年者クラブに係る小規模補助金を統合(旧社会奉仕団助成事業補助金等) ・平成14年4月 荒川区高年者クラブ連合会が、NPO法人格を取得。 特別助成金を1団体あたり年間80,000円とした(1万円の減) ・平成16年度限りで、区が主催していた指導者講習会は廃止(高年者クラブの自主的な取り組みとする)				
必要性	区内各地域において、社会奉仕、友愛及び健康増進等の活動を行っている単一高年者クラブ及び連合会の活動に対し、運営費の一部を助成することにより、地域の活性化と高齢者福祉の向上に寄与しており必要性は高い。				
実施方法	(一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	高齢者スポーツ普及事業については、NPO法人荒川区高年者クラブ連合会へ委託				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	32,117	30,674	31,611	31,251	31,452	30,170	30,717	
決算額(20年度は見込み)	30,898	30,593	30,826	30,675	30,216	29,904	27,636	
人件費				3,417	3,413	2,733		
【事務分担量】(%)				112	112	132		
合計(+)	30,898	30,593	30,826	34,092	33,629	32,637	27,636	
国(特定財源)								
都(特定財源)	3,085	3,040	3,061	3,055	2,945	2,931	2,991	
その他(特定財源)								
一般財源	27,813	27,553	27,765	31,037	30,684	29,706	27,726	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
クラブ数(6月1日現在)	83	82	83	83	81	81	81	
会員数(6月1日現在)	10,199	9,842	9,665	9,525	9,077	8,716	8,438	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	指導者講習会謝礼	0				
	特別旅費			福祉高齢者課嘱託員随行旅費	6	福祉高齢者課嘱託員随行旅費	6
	一般需用費	消耗品費	0	消耗品費	0	消耗品費	15
	委託料	スポーツ普及事業委託	228	スポーツ普及事業委託	215	スポーツ普及事業委託	275
	負担金補助及び交付金	単一クラブ、連合会	29,988	単一クラブ、連合会	29,683	単一クラブ、連合会	30,421

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	クラブ数	83	81	81	81	85	クラブ数の拡大 (各年度6月1日現在)
	会員数	9,525	9,077	8,716	8,438	11,000	会員数の拡大 (各年度6月1日現在)
	加入率	18.16%	17.22%	16.26%	15.54%	20.00%	会員数 ÷ 60歳以上人口 × 100

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラブとも会員獲得に苦勞しており、特に60～65歳代の会員が少なく後継者の育成が課題である。</li> <li>・前期高齢者に対する活動内容の拡大</li> <li>・単一クラブに対する補助金（特別助成金）の見直し</li> <li>・地域貢献活動の拡充</li> </ul>
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
会員の獲得や活動内容の拡大については、連合会主催の「会長研修会」などで、テーマとして取り組んでもらうよう働きかけを行う。	会員の増加や新規クラブの立ち上げの実現を図る。
補助金（特別助成金）については、減少している会員の獲得やIT活動などに役立ててもらえるよう指導する。	団塊の世代等を会員として獲得することにより、会員の減少傾向の歯止めが期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	団塊の世代の受け皿となるよう、各クラブ及び連合会の活動の活性化を図る必要がある。

(状況)	14年二定 元気高齢者づくり方策について
------	----------------------

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高齢者生きがい事業補助 (シルバー大学)	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	大和田志全	内線	2661
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(20年度)	高齢者生きがい事業補助(16-15-66-01)				
事務事業の種類	新規事業	(20年度 19年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	12年度	根拠 法令等	荒川区高齢者生涯学習団体補助金交付要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
目的	高齢者の教養文化活動を奨励するため、高齢者を対象とした教養講座や趣味講座等の文化活動を行う民間団体に対し、その運営経費の一部を助成することにより、高齢者の知的活動と新しい仲間との出会いを促進し、活気に満ちた健康で文化的な生活の実践を支援する。				
対象者等	60才以上の者を対象とする団体 50人以上の会員を有する団体 社会教育団体又は学習団体として教育委員会に登録している団体 運営のための事務局員を配置していること、または事務局を配置して一元的に事務処理している団体				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助対象経費 事務局職員の賃金又は賃金の支払いが無い場合は事務処理上の備品購入費、消耗品費、郵便料、電話料金、旅費</li> <li>・補助金交付額 教室受講者延人員(900人以上)と補助対象経費に応じて最大160万円まで</li> </ul>				
経過	<p>平成12年度 新規事業として開始</p> <p>平成14年度 補助金交付要綱一部改正 対象団体 会員数200人以上 50人以上 事務局職員を配置していること 事務局職員を配置又は事務局を設置していること</p> <p>対象経費 事務局職員の賃金 事務局職員の賃金又は事務処理上の経費 補助額 会員数に応じて80万円まで 会員数に応じて160万円まで</p> <p>平成17年度 補助金交付要綱一部改正 補助率見直し(一律1/2) 補助額 会員数に応じて160万円まで 教室受講者延人員に応じて120万円まで</p> <p>平成19年度 補助金交付要綱一部改正 補助対象経費が240万円を超える場合は160万円</p>				
必要性	元気高齢者の社会参加や教養文化活動の奨励は、高齢者が生き生きと充実した生活を送るうえで非常に重要なことである。高齢者を対象とした教養講座や趣味講座等を行う団体にその運営経費の一部を助成することは、高齢者の生きがいづくりの機会拡大につながり、必要性は高い。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	予算の範囲内で、団体の文化教養活動に要した経費の一部を補助する。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	2,000	1,600	1,600	1,200	1,200	1,600	1,600	
決算額(20年度は見込み)	1,600	1,600	1,600	1,200	1,200	1,600	1,600	
人件費				1,724	427	256		
【事務分担当】(%)				20	5	3		
合計(+)	1,600	1,600	1,600	2,924	1,627	1,856	1,600	
国(特定財源)								
都(特定財源)	900	1,000	800	600	600	800	800	
その他(特定財源)								
一般財源	700	600	800	2,324	1,027	1,000	800	
実績の推移								
事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
補助団体数	1	1	1	1	1	1	1	
会員数(4月1日現在)	736	773	850	756	794	856	873	
教科数(教室数)(4月1日現在)	17(19)	20(22)	20(不明)	21(26)	23(25)	24(30)	26(33)	
登録受講者数(4月1日現在)	1,025	1,126	1,235	1,137	1,186	1,238	1,245	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	補助金	1,200	補助金	1,600	補助金	1,600

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	補助対象団体の会員数（人）	756	794	856	873	1,050	各年4月1日現在
	加入率	1.54%	1.63%	1.66%	1.61%	1.98%	会員数 ÷ 60歳以上人口 × 100
	登録受講者数	1,137	1,186	1,238	1,245	1,350	各年4月1日現在

（問題点・課題分析）	
他区の実施状況	<p style="text-align: center;">（実施 8 区                      未実施 14 区）</p> <p>当シルバー大学と同程度の内容で実施している区 （文京、豊島、世田谷、中野、板橋、練馬、葛飾、江戸川）*各区のホームページより検索</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	団塊の世代や元気高齢者の社会参加を促進するため、団体の活動の活性化を図る必要がある。

状況（要質問状）	議会	平成16年四定 自民 元気な高齢者の社会参加、生きがい活動の支援策を強化すべき
----------	----	---

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	シルバー人材センター管理運営費等助成	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	新井玄二郎	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	シルバー人材センター管理運営費等助成費（16-25-33-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	62年度	根拠	荒川シルバー人材センター補助金交付要綱・高齢者の
終期設定	有	無	年度	法令等	雇用の安定等に関する法律等
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
目的	荒川区シルバー人材センターの事業に要する経費の一部を助成することにより、同センターの安定的な経営を確保し、もって高齢者の福祉の向上に寄与する。				
対象者等	社団法人荒川区シルバー人材センター				
内容	補助対象経費及び補助額（平成20年度交付決定額 46,017,411円） 人件費（7名） 50,366,870円 センター職員給与と規定に基づく正規職員の給与及び諸手当、社会保険料（事業主負担分） 中小企業退職積立金（事務局長 @20,000×12ヶ月、一般職員 @10,000×12ヶ月） 管理運営費 4,357,870円（消耗品・印刷製本・光熱水費等） 嘱託員報酬 2,398,466円 差引国庫補助金相当額 12,300,000円  補助金以外の経費及び金額 全国シルバー人材センター協会賛助会費 50,000円 荒川区シルバー人材センター運営資金貸付金 3,200,000円				
経過	平成11年度より、荒川区立高齢者就業センター・荒川授産場・児童交通誘導業務の管理運営を委託。平成11年度～13年度の間、事務の移行を円滑に進めるため区職員を派遣し、事務局職員体制の強化を図った。 平成11年度 区派遣職員 3人 事務局長（課長職）・次長（係長）・職員（事務職） 平成12年度 区派遣職員 3人 事務局長（部長職）・次長（係長）・職員（事務職） 平成13年度 区派遣職員 1人 次長（係長） 平成14年度 14年4月1日公益法人派遣法施行に伴い、区職員の派遣を廃止 平成17年度 経営基盤強化補助を追加（単年度） 3,734,000円 平成18年度 繰越収支差額が1,000万円を超過したので、4,261,841円を区へ返還する。 平成19年度 繰越収支差額が1,000万円に満たないが税務署の指導があり精算による返還分を含め5,057,111円を区へ返還。				
必要性					
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 区はシルバー人材センターに補助金を交付し、都補助対象分について都に請求・受領する。なお、国補助については、都シルバー人材センター連合を通じて、直接シルバー人材センターに交付される。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	67,188	49,913	48,163	52,099	49,232	50,926	50,306	
決算額（20年度は見込み）	43,567	45,396	47,271	51,264	48,933	45,157	50,306	
人件費				530	648	817		
【事務分担量】（%）				17	22	26		
合計（+）	43,567	45,396	47,271	51,794	49,581	45,974	50,306	
国（特定財源）								
都（特定財源）	13,560	13,560	12,882	12,882	12,882	12,495	12,495	
その他（特定財源）	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	5,781	
一般財源	26,807	28,636	31,189	35,712	32,851	29,462	32,030	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	年度末会員数（人）	1,299	1,195	1,275	1,342	1,457	1,500	-
	就業延べ人数（人）	130,138	127,317	130,178	151,809	211,806	213,863	-
	契約金額（千円）	436,955	406,841	416,940	487,471	624,294	637,562	-
	就業率（%）	70.5	74.4	71.3	79.2	81.3	79.0	-
	受託件数（件）	3,728	3,839	4,104	4,372	4,976	5,578	-

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
貸付金	人件費（7名）		51,751	人件費（7名）	47,655	人件費（7名）	52,479
	管理運営費		4,430	管理運営費	4,429	管理運営費	4,430
	嘱託職員報酬（1名）		2,242	嘱託職員報酬（1名）	2,123	嘱託職員報酬（1名）	2,447
	全国SJ協会賛助会費		50	全国SJ協会賛助会費	50	全国SJ協会賛助会費	50
	国庫補助金相当額12,740千円を減				国庫補助金相当額12,300千円を減		
	貸付金	運営資金貸付金	3,200	運営資金貸付金	3,200	運営資金貸付金	3,200

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	会員数	1,342	1,457	1,500	1,500	1,900	
	就業実人数	1,063	1,184	1,304	1,200	1,558	
	就業率	79.2%	81.3%	78.9%	80.0%	82.0%	就業実人員 / 会員数
	就業延べ人員	151,089	211,806	213,863	215,000	274,000	

（問題点・課題）	会員数を拡大するとともに、会員に対する就業機会の拡充を図ることが大きな課題である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
企業等に対する受注拡大及び会員獲得のPR活動の充実	就業延べ人員及び会員数の拡充につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	高齢者人口の増大及び高齢化比率の上昇に伴い、高齢者の生きがいづくりとしても、就労機会の拡大を図ることは重要な課題である。

議（要質問）	15年二定 15年三定 16年一定 16年四定 17年一定	高齢者の雇用の確保・拡充について
--------	---	------------------

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	シルバー人材センター受注拡大強化助成	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	新井玄二郎	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	シルバー人材センター受注拡大強化助成費（16-25-66-01）				
事務事業の種類	新規事業	（ 20年度 19年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	2 年度	根拠 法令等	
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
目的	荒川区シルバー人材センターの受注拡大と会員数拡大に要する経費を助成することにより、同センターの受注と会員数拡大を図り、高齢者の就業を充実させる。				
対象者等	社団法人荒川区シルバー人材センター				
内容	補助対象事業及び補助額等（平成19年度） ・ 高齢者生活援助サービス事業補助（嘱託員報酬） 高齢者生活援助サービス事業嘱託員1名分の報酬及び社会保険料事業主負担分。 補助率1/2（限度額 1,128,747円） ・ 自主事業開発推進事業補助 シルバー人材センターの創意工夫のある意欲的な自主事業創設の取組みに対する助成 限度額（200万円）				
経過	平成6年度 都の補助対象事業となる事業及び民間企業の受注拡大を図るための企業開拓員の報酬を補助 平成10年度 国庫補助（介護支援推進事業補助金）の補助対象となる。補助期間は平成10年度から5年間 平成11年度 介護支援事業を推進するための嘱託員報酬を補助 平成12年度 就業分野拡大を目的とする事業に対し補助。（平成11年度から都補助金の補助対象事業となる。補助期間5年間）。介護支援推進事業嘱託員の報酬は引き続き補助対象だが、国庫補助金は直接シルバー人材センターに交付されることとなったため、区の補助は1/2補助とする。 平成13年度 事業補助金として4,000千円が国から追加交付 平成16年度 従来の就業分野拡大推進事業に対する都補助が終了し、新たに「チャレンジ提案事業」及び「コミュニティ就業モデル事業」が補助対象となった。これに伴い、区の補助内容も見直し、就業分野拡大推進事業費に対する補助は15年度限りで廃止の予定であったが、3,000千円のうち931千円を経過措置として交付し、残り2,069千円は新たに都補助対象となったチャレンジ提案事業に対して交付した。 平成19年度 チャレンジ提案事業が終了となり、新たに自主事業等開発推進事業が補助対象になる（補助金200万円）。なお、本年度は当事業について、シルバーとしては実施していない。				
必要性	荒川区シルバー人材センターの受注拡大と会員数拡大を図ることは、高齢者の就業や社会参加の促進に寄与するため、必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 荒川区シルバー人材センター補助金交付要綱に掲げる補助対象経費について補助する。ただし、介護支援推進事業は国庫補助対象事業になっており、平成12年度からは経費の1/2が（財）東京都しごと財団を経由して、荒川区シルバー人材センターに直接補助されることとなった。（国庫補助金名称 介護・育児サービス促進事業） また、就業分野拡大推進事業費（15年度まで）、チャレンジ提案事業及びコミュニティ就業モデル事業（16年度から）は都の補助対象事業になっているので、区が交付した補助金のうち補助対象部分を都に請求し、受領する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	4,183	4,151	4,128	3,122	3,128	3,129	3,195	
決算額（20年度は見込み）	4,064	3,000	3,490	3,122	3,123	1,129	3,195	
人件費				530	648	793		
【事務分担量】（%）				17	22	25		
合計（+）	4,064	3,000	3,490	3,652	3,771	1,922	3,195	
国（特定財源）								
都（特定財源）	1,500	1,500	755	1,000	1,000	1,000	1,000	
その他（特定財源）								
一般財源	2,564	1,500	2,735	2,652	2,771	922	2,195	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	受託件数（件）	3,728	3,839	4,104	4,372	4,976	5,578	-
	契約金額（千円）	436,955	406,841	416,940	487,471	624,294	637,562	-
	公民比率（公：民）	49.0:51.0	45.7:54.3	43.3:56.7	45.7:54.3	52.0:48.0	51.4:48.6	-

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
負担金補助及び交付金	高齢者生活援助サービス事業費		1,123	高齢者生活援助サービス事業費	1,129	高齢者生活援助サービス事業費	1,195
	就業分野拡大推進事業費		0	自主事業開発推進事業（19年度交付せず）	0	自主事業開発推進事業	2,000
	チャレンジ提案事業費		2,000				

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値（22年度）	
受託件数		4,372	4,976	5,578	-	5,200	
契約金額（千円）		487,471	624,294	637,562	-	608,000	
公民比率		45.7:54.3	52.0:48.0	51.4:48.6	-	54.0:46.0	

（問題点・課題）	<p>会員数を拡大するとともに、会員に対する就業機会の拡充を図ることが大きな課題である。</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p> <p>16年度からの新規事業（チャレンジ提案事業）については、18年度は14区が実施 16年度からの新規事業（コミュニティ就業モデル）については、18年度は2区で実施</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>企業等に対する受注拡大及び会員獲得のPR活動の充実</p>	<p>就業延べ人員及び会員数の拡充につながる。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	<p>シルバー人材センターが新たな事業に進出し、会員数及び受注先の拡大を図ることは重要である。</p>

議会（要旨）	<p>15年二定 15年三定 16年一定 16年四定 17年一定</p> <p style="text-align: center;">高齢者の雇用の確保・拡充について</p>
--------	--



事務事業分析シート(平成20年度)

No1

事務事業名	高齢者の社会参加しくみづくり	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(20年度)	高齢者福祉事業事務費(16-35-40-01)				
事務事業の種類	新規事業	(20年度	19年度)	建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	12年度	根拠	「高齢者の社会参加しくみづくり」実施計画書
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
目的	地域への係わりが希薄なサラリーマン等が、定年退職後の地域社会活動を自ら企画立案して積極的な社会参加を実現できるよう支援する。				
対象者等	区内在住の定年退職者や定年退職予定者で、自主的な社会参加に向けた意欲のある者				
内容	<p>今後の高齢者の社会参加促進のため、社会参加意識が希薄なサラリーマンOB等へのアプローチが不可欠である。区内在住の定年退職者又は定年退職予定者が、これまでに培った知識、経験を活かし社会活動に参加できるよう、年1回、定年退職者向け市民ボランティア活動講座「新世界発見」を開催している。</p> <p>19年度 参加者が持つ様々な一芸(趣味や特技等)を活用して、ボランティア活動につなげるための「一芸DEボランティア講座」全3回(3/6・13・15 サンパール荒川 集会室、荒川老人福祉センター)を開催</p> <p>第1回 3/6 18時30分～20時30分 サンパール荒川 4階集会室 NPOゼファーまちづくり 講師 石森宏 日本ケアリングクラウン研究所 講師 高田佳子 阿波踊り 葵連 講師 小峯郁恵</p> <p>第2回 3/13 18時30分～20時30分 サンパール荒川 4階集会室 住民流福祉総合研究所 所長 木原孝久</p> <p>第3回 3/15 13時30分～15時30分 荒川老人福祉センター 4階会議室 希望者に一芸を披露又はプレゼンテーション</p> <p>18年度事業内容 「フォークソングライブ・コンサートを資金0円から開催までの講座」全3回</p> <p>第1回 3/29 19時～21時 講演・ミニライブ 講師:小室 等 町屋文化センター ホール</p> <p>第2回 3/30 19時～21時 講演・ミニライブ 講師:むげん(石塚章正)他 アクロス荒川</p> <p>第3回 3/31 14時～16時 講演・ミニライブ 講師:JAM FAMILY他 アクロス荒川</p> <p>18年度は、17年度までの講座形式と違い、コンサート形式で行ったため、3日間の延べ人数が134人となった。(3日間連続受講者は20名)</p> <p>16年度 参加者が自主的かつ積極的に生きがいを見つけるための講座(5回シリーズ開催)</p> <p>17年度 定年退職者等の社会参加の促進と地域社会への復帰と生きがい活動の実践を支援する「ボランティア市民活動(シニア活動支援)講座『新世界発見』」全4回</p>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>12年度 検討会を開催 高齢者団体として「荒川区高年者クラブ連合会」「シルバー人材センター」「シルバー大学」各2名、専門知識を有する講師2名の合計8名で実施し、さらに、社会福祉協議会等がオブザーバー参加</li> <li>13年度 定年退職者向け市民ボランティア活動講座の開催 社会福祉協議会との共催で、定年退職者及び退職予定者を対象に、参加者の自主的な社会参加を促進するための講座を5回シリーズで開催。14年度より社会福祉協議会へ委託</li> </ul>				
必要性	定年退職者等が在職時の経験と知識を活用した地域での社会参加と生きがい活動の実践を支援していくことは、地域社会の活性化に寄与するのみならず、区にとってもメリットがあり必要性は高い。				
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	社会福祉協議会に委託				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	149	161	161	161	158	158	159	
決算額(20年度は見込み)	149	161	159	161	154	158	159	
人件費				1,034	1,025	854		
【事務分担当量】(%)				12	12	10		
合計(+)	149	161	159	1,195	1,179	1,012	159	
国(特定財源)								
都(特定財源)	74	80	80	80	79	79	79	
その他(特定財源)								
一般財源	75	81	79	1,115	1,100	933	80	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
講座参加者	16	15	15	13	134	150	-	

事務事業分析シート(平成20年度)

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度(決算)		平成19年度(決算)		平成20年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
委託料	事業費		125	事業費	110	事業費	126
	事務費		9	事務費	28	事務費	12
	管理費		20	管理費	20	管理費	21

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
	講座参加率(%)	53	96	46	-	100	参加者数/募集定員 18年度はコンサート形式で行ったため、参加率増となった。

(問題点・課題分析)	講座終了後に結成された自主グループの継続的な育成をどのように進めるのか。
他区の実況	(実施 10 区 未実施 12 区) 千代田、港、新宿、墨田、品川、目黒、杉並、足立、葛飾、江戸川

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
自主グループの継続的な育成については、委託先である社会福祉法人荒川区社会福祉協議会ボランティアセンターでのフォローアップを検討する。	ボランティアの活動継続と活性化が図れる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	地域社会の活性化にとって、定年退職者等の社会参加を促進する意義は大きい。

況議会(要旨)質問状	14年二定 元気高齢者づくり方策の展開について 16年四定 元気な高齢者の社会参加、生きがい活動の支援策について
------------	---

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	老人福祉センター管理運営	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦																											
		担当者名	山田正枝	内線	2678																											
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	老人福祉センター管理運営費・事務費(16-75-50-01) 老人福祉センター管理運営費・営繕費(16-75-75-01)																															
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業																												
開始年度	昭和	平成	45年度	根拠	荒川区立荒川老人福祉センター条例・施行規則																											
終期設定	有	無	年度	法令等	" 会議室の利用に関する要綱																											
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画																											
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]																														
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]																														
	施策	高齢者の社会参加の促進[02-01]																														
目的	高齢者が、住み慣れた地域の中で、教養を高め、明るく豊かな高齢期を過ごすことができるよう、老人福祉センターにおいて、生活相談や健康相談、機能訓練等を行うとともに、各種行事や教室を開催する																															
対象者等	満60歳以上の方(教材費一部自己負担あり)、会議室利用について一般貸出は有料																															
内容	生活相談（生活上の問題の相談に応じ情報提供[毎日]） 健康相談（健康で快適な生活を維持するための指導援助[毎日]と嘱託医による週1回の健康診査[毎週水曜日午後2時～3時30分]） 機能訓練（脳卒中などによる後遺症がある方や身体機能の低下が認められる要介護認定非該当の方を対象として、リハビリ指導員による訓練と健康相談員・看護師による自主訓練を原則毎日実施[午前9時30分～11時30分]） 入浴（火曜日午前10時～12時・午後13時～15時、土曜日午後13時～15時） 各種行事（新春行事・文化祭・高齢者福祉週間・吟詠大会・高年者芸能大会等） 各種教室・定例事業（書道・英語・フラダンス・フォークダンス・コーラス・インターネットスポット・IT講習会・公開講座等） いこい室事業（カラオケ・民謡・踊り・手芸・舞台装飾等） 会議室の貸出																															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">定員</th> <th colspan="3">使用料</th> </tr> <tr> <th>午前 9:00～12:00</th> <th>午後 1:00～5:00</th> <th>午後 6:00～10:00</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会議室1</td> <td>65m<sup>2</sup> 40名</td> <td>400円</td> <td>500円</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>会議室2</td> <td>64m<sup>2</sup> 40名</td> <td>400円</td> <td>500円</td> <td>500円</td> </tr> <tr> <td>会議室3</td> <td>64m<sup>2</sup> 40名</td> <td>400円</td> <td>500円</td> <td>500円</td> </tr> </tbody> </table>		定員	使用料			午前 9:00～12:00	午後 1:00～5:00	午後 6:00～10:00	会議室1	65m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円	会議室2	64m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円	会議室3	64m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円	19年度会議室貸出実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者</td> <td>1,236</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,276</td> </tr> </tbody> </table>		件数	高齢者	1,236	一般	40	計
	定員			使用料																												
		午前 9:00～12:00	午後 1:00～5:00	午後 6:00～10:00																												
会議室1	65m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円																												
会議室2	64m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円																												
会議室3	64m <sup>2</sup> 40名	400円	500円	500円																												
	件数																															
高齢者	1,236																															
一般	40																															
計	1,276																															
	[住所]荒川区荒川1-34-6 [敷地面積]777.68m <sup>2</sup> [延床面積]959.79m <sup>2</sup> [構造]地下1階地上4階建 [施設内容]機能回復訓練室・相談室・いこい室・娯楽室・茶室・浴室・会議室等																															
経過	昭和45年12月1日開設。全面改築に合わせて平成6年12月1日荒川老人福祉センターと荒川在宅高齢者通所サービスセンターを併設した、高齢者センターオープン。平成7年4月より荒川区社会福祉協議会に管理運営委託。平成18年4月1日より荒川区社会福祉協議会が指定管理者となる。																															
必要性	高齢者が地域の中で教養を高め、明るく豊かな高齢期を過ごすためには、相談・講座・行事等実施できる施設が、閉じこもりを防ぐ観点からも必要である。																															
実施方法	（3委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者である社会福祉法人荒川区社会福祉協議会に管理運営委託（平成19年度実績 62,550千円） 人員配置（常勤職員）所長1・事務員2 計3人 （非常勤職員）健康相談員2・生活相談員1・リハビリ指導員1・推進員4・看護婦1・用務員2																															

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	65,504	63,966	63,223	63,062	60,862	65,897	66,361	
決算額（20年度は見込み）	60,839	57,769	56,224	57,737	57,851	64,745	66,361	
人件費				2,155	2,391	3,160		
【事務分担量】（%）				25	28	37		
合計（+）	60,839	57,769	56,224	59,892	60,242	67,905	66,361	
国（特定財源）	591	645	591	585	0	0		
都（特定財源）	632	1,677	1,508	2,182	0	1,150	1,160	
その他（特定財源）	77	81	114	107	103	86	1,138	
一般財源	59,539	55,366	54,011	57,018	60,139	66,669	64,063	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
生活・健康診査・健康相談延べ件数	1,734	1,673	1,494	1,626	3,215	2,944	1,800	
機能訓練・入浴延べ人数	6,621	6,310	5,512	4,928	5,342	4,250	5,000	
行事・教室延べ人数	12,547	11,215	14,482	12,944	12,498	14,109	15,000	
いこい・会議室延べ人数	20,450	22,857	22,109	23,106	24,791	21,854	33,000	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	人件費		40,234	人件費	44,083	人件費	46,998
	管理費		9,857	管理費	10,284	管理費	10,399
	事業費		7,371	事業費	8,183	事業費	7,839
工事請負費	空調機センターコンソール取替え		389	機械室漏水部改修	2,195	1階ア-カーテン改修	1,125

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	生活・健康審査・健康相談	1,626	3,215	2,944	1,800	-	延べ件数
	機能訓練・入浴	4,928	5,342	4,250	5,000	-	延べ件数
	行事・教室	12,944	12,498	14,109	15,000	-	延べ件数
	いこい・会議室	23,106	24,791	21,854	33,000	-	延べ件数

（問題点・課題分析）	年々入館者人数が増えてきて、交流の場である3階のいこい室・娯楽室のバリアフリー化が求められる。
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
いこい室・娯楽室のバリアフリー化を図るために、畳からフローリングに改修し、入口に手摺りを設置する。	利用者にとって安全で、利用しやすい施設となる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	介護予防の観点からも、元気な高齢者にとって魅力のある事業を展開する必要がある。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

<b>事務事業名</b>	荒川授産場管理運営（人件費等）	<b>部課名</b>	福祉部福祉高齢者課	<b>課長名</b>	大内和彦
		<b>担当者名</b>	新井玄二郎	<b>内線</b>	2677
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）</b>	荒川授産場管理運営費・事務費(16-80-50-01) 荒川授産場管理運営費・営繕費(16-80-75-01)				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和	平成	54年度	<b>根拠法令等</b>	社会福祉法・生活保護法・荒川区立荒川授産場条例・荒川区立荒川授産場規則・要綱
<b>終期設定</b>	有	無	年度		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	生涯健康都市[ ]			
	<b>政策</b>	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	<b>施策</b>	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
<b>目的</b>	一般の企業に就職することが困難な高齢者や生活困難者に設備と仕事を提供することにより、健康の保持や生きがいづくりに寄与するとともに、生活安定の一助とする。				
<b>対象者等</b>	1 60歳以上の荒川区民、2 生活困難者、3 その他区長が適当と認めたもの 2及び3に該当するものは収入基準あり...利用申込者の属する生計中心者の収入については、地方税法に規定する市町村民税の所得割が90,000円未満であること。				
<b>内容</b>	<b>施設の概要</b> 1 所在地 荒川区東尾久4丁目32番7号 2 延床面積 1088.52㎡（このうち、484.62㎡が授産場部分） 3 構造等 鉄筋コンクリート造り 地上3階・地下1階 4 施設内容 作業室・利用者休養室（施設3階部分） 5 定員 場内29名・居宅58名（平成18年度末現在の利用者数 場内19名、居宅1名） 6 開設日 平成5年4月6日「高齢者就業センター」落成。平成11年同センターへ授産場移転。				
<b>経過</b>	昭和55年3月1日 東京都から事務移管（施設所在地 荒川区東尾久5丁目45番11号）旧授産場譲渡を受ける。（20年間の用途指定あり） 平成11年度 授産場の管理運営の一部をシルバー人材センターに委託。同時に、高齢者就業センター内（現所在地）に移転。旧施設は当分の間授産場倉庫として使用。 平成13年度 区派遣事務職員廃止、シルバー人材センター非常勤職員が対応。 平成14年度 区派遣職員 場長（シルバー人材センター次長、就業センター所長兼務）廃止 平成18年度 就業センター廃止に伴い会議室を加える 指定管理者制度を導入（指定管理者：シルバー人材センター）				
<b>必要性</b>	授産場において、一般の企業に就職することが困難な高齢者や生活困難者に仕事を提供することは、健康の保持や生きがいづくりに寄与するとともに、生活安定の一助となる。				
<b>実施方法</b>	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 平成11年度より社団法人荒川区シルバー人材センターに管理運営を委託 平成18年度より指定管理者制度を導入（指定管理者：シルバー人材センター） 平成18年度指定管理料実績13,504千円（精算による返還額4,532千円は19年度に歳入） 人員配置 常勤9人（うちシルバー会員6人）場長1名、事務員2名、指導員6名				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	11,093	11,038	11,028	11,279	22,728	17,286	19,151	
決算額	9,108	9,342	9,213	9,523	21,558	13,758	19,151	
人件費				649	887	817		
【事務分担量】（%）				22	32	26		
合計（+）	9,108	9,342	9,213	10,172	22,445	14,575	19,151	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）	16,792	18,297	17,928	17,065	17,536	17,776	18,754	
一般財源	-7,684	-8,955	-8,715	-6,893	4,909	-3,201	397	
<b>実績の推移</b>								
	<b>事項名</b>	<b>14年度</b>	<b>15年度</b>	<b>16年度</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>
	場内利用者数(年間実働人員)	224	249	257	235	239	238	-
	居宅利用者数(年間実働人員)	46	27	11	4	1	0	-
	場内利用者数(年度末)	23	21	21	19	19	21	-
	居宅利用者数(年度末)	8	5	3	1	1	0	-

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
内訳	役務費	電話料	22				
	委託料	人件費	9,180	人件費	7,765	人件費	8,320
		管理費	7,986	管理費	5,758	管理費	8,021
		事務費	870	事務費	235	事務費	817
	光熱水費	光熱水費	203				
工事請負費	改修工事等	3,297			外壁改修	1,993	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	場内利用者数（年間実働人員）	235	239	238	-	-	延べ人数
	居宅利用者数（年間実働人員）	4	1	0	-	-	延べ人数

問題点・課題	<p>定員は29名だが、作業スペースを確保できず、20名程度しか受け入れることができない。また、作業員の高齢化に伴い作業効率が低下すると、受注拡大を図っても対応が困難となる。</p> <p>事務移管時の譲渡契約上の用途指定期間が過ぎたこともあり、高齢者向けの授産施設を廃止する区も出ている。都も15年度限りで廃止している。利用者の年齢及び作業内容がシルバー人材センター事業と類似しているため、一体化を検討していく必要はあるが、授産場場内利用者は高齢化しており、シルバー人材センターの理念である「自主・自立」の出来る年齢・体力を兼ね備えている利用者は非常に少ない。指導員のような手助けの出来る者が必要であり、一体化していく上での課題は大きい。</p> <p>13年度において、一社が受託加工代金を未支払いのまま倒産した（そのまま回収できず）。</p>
他区の実況	<p>（実施 6 区 未実施 区）</p> <p>中央区、渋谷区、北区、板橋区、足立区、江戸川区</p>

問題点・課題の改善策検討	
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容
	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	利用者の高齢化や雇用状況の変化等を踏まえ、現状の規模で実施する。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

<b>事務事業名</b>	荒川授産場事業運営（その他事業）	<b>部課名</b>	福祉部高齢者福祉課	<b>課長名</b>	大内和彦
		<b>担当者名</b>	新井玄二郎	<b>内線</b>	2677
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）</b>	荒川授産場事業運営費・その他事業費（16-85-66-01）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業	（ 20年度 19年度 ）		建設事業	それ以外の継続事業
<b>開始年度</b>	昭和	平成	54 年度	<b>根拠法令等</b>	社会福祉法・生活保護法・荒川区立荒川授産場条例・荒川区立荒川授産場規則・要綱
<b>終期設定</b>	有	無	年度		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	生涯健康都市[ ]			
	<b>政策</b>	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	<b>施策</b>	高齢者の社会参加の促進[02-01]			
<b>目的</b>	一般の企業に就職することが困難な高齢者や生活困難者に仕事を提供することにより、健康保持や生きがいづくりに寄与するとともに、生活安定の一助とする。				
<b>対象者等</b>	1 60歳以上の荒川区民、2 生活困難者、3 その他区長が適当と認めたもの 2及び3に該当するものは収入基準あり...利用申込者の属する生計中心者の収入については、地方税法に規定する市町村民税の所得割が90,000円未満であること。				
<b>内容</b>	<b>仕事の概要</b>	高齢者等に適した簡易な仕事を民間企業等から受注し、その加工代金を出来高等に応じて、利用者に支払う。			
	<b>利用形態</b>	場内作業：授産場に通い場内で作業。居宅作業：授産場に材料を取りにきて自宅で製品に仕上げ、授産場へ納品			
	<b>作業種目</b>	箱折り、箱詰め、おたよりカバー掛け、手帳鉛筆紐付け、菓子袋ヘッター付け、シール貼り、和裁等			
	<b>その他</b>	嘱託医による問診、血圧測定等の健康相談			
<b>経過</b>	昭和55年3月1日	東京都から事務移管（施設所在地 荒川区東尾久5丁目45番11号）旧授産場譲渡を受ける。（20年間の用途指定あり）			
	平成11年度	授産場の管理運営の一部をシルバー人材センターに委託。同時に、高齢者就業センター内（現所在地）に移転。旧施設は当分の間授産場倉庫として使用。			
	平成13年度	区派遣事務職員廃止、シルバー人材センター非常勤職員が対応。			
	平成14年度	区派遣職員 場長（シルバー人材センター次長、就業センター所長兼務）廃止			
	平成18年度	就業センター廃止に伴い会議室を加える 指定管理者制度を導入（指定管理者：シルバー人材センター）により支払工賃及び受託収入については、シルバー人材センターが事務を執行する。			
<b>必要性</b>	授産場において、一般の企業に就職することが困難な高齢者や生活困難者に仕事を提供することは、健康の保持や生きがいづくりに寄与するとともに、生活安定の一助となる。				
<b>実施方法</b>	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 平成11年度より社団福祉法人荒川区シルバー人材センターに管理運営を委託。 平成18年度より指定管理者制度を導入（指定管理者：シルバー人材センター） 平成18年度指定管理料実績445千円（精算による返還額42千円は19年度に歳入）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	7,796	7,672	7,497	7,619	488	488	474	
決算額	6,037	7,290	6,700	7,575	487	439	474	
人件費				649	887	793		
【事務分担量】（%）				22	32	25		
合計（+）	6,037	7,290	6,700	8,224	1,374	1,232	474	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）	5,594	6,845	6,260	7,130				
一般財源	443	445	440	1,094	1,374	1,232	474	
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
場内利用者数(年間実働人員)	224	249	257	235	239	243	-	
居宅利用者数(年間実働人員)	46	27	11	4	1	0	-	
支払工賃(平均月額)	20,721	24,801	24,216	24,657	27,010	32,352	-	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	事業費（嘱託医報酬、消耗品）	464		嘱託医報酬	395	嘱託医報酬	395
	事務費	23		事業費	23	消耗品	28
				事務費	21	事務費	23
						事業費	28

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値（22年度）	
標	場内利用者数（年間実働人員）	235	239	238	252	-	延べ人数
	居宅利用者数（年間実働人員）	4	1	0	12	-	延べ人数
	支払工賃（平均月額）	24,657	27,010	32,352	-	27,500	

（問題点・課題）	<p>定員は29名だが、作業スペースを確保できず、20名程度しか受け入れることができない。また、作業員の高齢化に伴い作業効率が低下すると、受注拡大を図っても対応が困難となる。</p> <p>事務移管時の譲渡契約上の用途指定期間が過ぎたこともあり、高齢者向けの授産施設を廃止する区も出ている。都も15年度限りで廃止している。利用者の年齢及び作業内容がシルバー人材センター事業と類似しているため、一体化を検討していく必要はあるが、授産場場内利用者は高齢化しており、シルバー人材センターの理念である「自主・自立」の出来る年齢・体力を兼ね備えている利用者は非常に少ない。指導員のような手助けの出来る者が必要であり、一体化していく上での課題は大きい。</p> <p>13年度において、一社が受託加工代金を未支払いのまま倒産した（そのまま回収できず）。</p>
他区の実況	<p>（実施 6 区 未実施 区）</p> <p>中央区、渋谷区、北区、板橋区、足立区、江戸川区</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	利用者の高齢化や時代状況の推移等を踏まえ、現状の規模で実施する。

（状況）	
------	--



# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高齢者民間住宅入居支援事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内 和彦
		担当者名	板垣 洋子	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	高齢者民間住宅入居支援事業（16-10-94-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 19年度	根拠法令等	荒川区高齢者民間住宅入居支援事業要綱		
終期設定	有 無 年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	高齢者世帯が民間賃貸住宅に入居する際に自ら連帯保証人を立てられずに、転居することが困難になっている場合がある。このため、区と民間の保証会社が協定を結び、高齢者世帯に家賃等の債務に係る保証サービスを提供するとともに、区が委託保証契約に要する保証料を助成することにより、高齢者世帯の居住の安定と福祉の向上を図る。				
対象者等	次のいずれにも該当するもの及び区長が特に必要と認めるもの ひとり暮らしの高齢者または高齢者及び60歳以上のみの世帯 荒川区内に引き続き1年以上居住していること 区内の民間賃貸住宅に転居し、かつ、連帯保証人が立てられないこと 自立した生活を営め、家賃の支払いができること 緊急連絡先があること 世帯の前年所得が、一般世帯に適用される都営住宅に入居するための所得基準以下であること 特別区民税及び国民健康保険料を滞納していないこと				
内容	債務保証料助成 ・補助対象経費：高齢者世帯が信用保証会社に支払う保証料（2年目以降の保証料及び更新保証料も対象とする。） 初回保証料は月額家賃等の30%または50%、2年目以降は2年間で月額家賃等の30%又は年1万円(信用保証会社により異なる。) ・補助率：10/10 ・補助限度額：50,000円				
経過					
必要性	高齢者の民間賃貸住宅への入居を容易にし、住み慣れた地域において生活を維持していくためにも、必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 保証会社との保証委託契約を締結した際に支払った保証料の領収書に基づき、助成を実施する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	-	-	-	-	-	100	2,200	
決算額						60	2,200	
人件費						1,110		
【事務分担量】（%）						13		
合計（+）	0	0	0	0	0	1,170	2,200	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	1,170	2,200	
実績の推移	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
事項名								
新規助成件数						3	40	
更新時助成件数						-	20	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）		
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
	負担金補助及び交付金			補助金	60	債務保証料(初回分)	2,000	債務保証料(更新分)

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	助成者数	-	-	3	10	15	20年度は、他区の実績から推計

（問題点・課題分析）	平成19年度の新規事業であり、制度の実効性をあげるためにも、対象者への周知が重要である。
他区の実施状況	（実施 12 区 未実施 10 区） 補助率 1/2(品川、中野、世田谷、北、豊島、台東、練馬)、10/10(大田、文京、新宿、渋谷、千代田) 限度額 5万円(品川、大田、文京、渋谷、千代田)、2万円(世田谷、台東)、1万5千円(中野、北)、1万円(豊島)、新宿(単身:3万6千円、2人以上:4万5千円)、練馬(月額賃料の30%)

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	高齢者が住み慣れた地域において住宅を確保するために、必要な事業である。

況議(要質問状)	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	社会福祉協議会補助(長寿慶祝の会)	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(20年度)	社会福祉協議会事業補助(15-72-33-01)				
事務事業の種類	新規事業 (20年度 19年度)		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	35年度	根拠法令等	長寿慶祝の会実施計画書
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	社会福祉協議会が開催する長寿慶祝の会に要する経費を助成することによって、長年にわたり地域社会のために貢献してきた高齢者に対して、感謝の意を表するとともに、長寿を祝う。				
対象者等	区内在住の満75歳以上の高齢者				
内容	<p>「敬老の日」に高齢者をサンパール荒川大ホールに招待し、式典と演芸による「長寿慶祝の会」を開催するとともに、来場者に対し、記念品を贈呈する。</p> <p>内 容：一部 式典、国歌斉唱、主催者挨拶、高齢者代表挨拶、来賓挨拶（紹介）、花束贈呈 二部 演芸</p> <p>平成19年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日 平成19年9月17日(月) 10時00分から3回実施</li> <li>・第1回 10時00分～11時25分 尾久地域 来場者数863人(対象者数 5,222人)</li> <li>・第2回 13時00分～14時25分 南千住・荒川地域 " 1,205人(対象者数 6,576人)</li> <li>・第3回 15時30分～16時55分 町屋・日暮里地域 " 900人(対象者数 6,950人)</li> <li>・来場者数計2,968人(対象者数計18,748人)</li> <li>・記念品 (@380*3,000=1,140,000)</li> </ul> <p>*区は事業を補助し、共催実施している。</p>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和35年 社会福祉協議会主催、第1回長寿慶祝の会を地域別に午前・午後の2回開催。90歳以上の高齢者9名に記念品を贈呈した。</li> <li>・平成13年度 75歳以上の高齢者人口の増加を踏まえ、これまでの2回開催を3回開催に変更した。</li> <li>・平成14年度以降、地域別にて3回開催</li> </ul>				
必要性	地域社会に長年貢献してきた高齢者を招待し、感謝の意と長寿を祝うものであり、地域の高齢者が楽しみにしている行事である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	3,312	3,052	2,829	2,577	2,570	2,549	2,449	
決算額(20年度は見込み)	2,552	2,414	2,322	2,275	2,279	2,413	2,449	
人件費				1,034	1,025	1,879		
【事務分担量】(%)				12	12	22		
合計(+)	2,552	2,414	2,322	3,309	3,304	4,292	2,449	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	2,552	2,414	2,322	3,309	3,304	4,292	2,449	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
対象者数	15,270	15,882	16,855	17,390	17,968	18,748	-	
来場者数	2,794	2,809	2,808	2,760	2,795	2,968	-	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
補助金	会場使用料	143	143	会場使用料	143	会場使用料	163
	演芸委託料	600	600	演芸委託料	600	演芸委託料	600
	手話通訳者謝礼	18	18	手話通訳者謝礼	18	手話通訳者謝礼	18
	看板作成費	76	76	看板作成費	76	看板作成費	75
	付帯設備使用料	51	49	付帯設備使用料	49	付帯設備使用料	75
	参加者記念品	1,140	1,284	参加者記念品	1,284	参加者記念品	1,300
	消耗品等	251	243	消耗品等	243	消耗品等	218

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	来場者数	2,760	2,795	2,968	-	3,000	来場者数実績
	参加率	15.9%	15.5%	15.8%	-	-	来場者数 ÷ 75歳以上人口 × 100

（指標分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者は年々増加し、会場の収容能力も限界に近づきつつあるため、実施方法の検討が必要。</li> <li>・区主催のお祝い会に対して喜びを感じている高齢者は少なくないが、一方で、町会や各単一高齢者クラブ等で敬老のお祝い会を実施しており、この事業の実施内容等を検討する必要がある。</li> </ul>
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
実施方法、実施内容等の見直しを検討する。	より多くの高齢者が参加し、楽しむことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	実施方法や内容等を見直す必要があり、当面、現状の規模で実施する。

況議（要質問状）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	理美容サービス事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	理美容サービス事業費(16-10-12-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	51年度	根拠	高齢者理美容サービス券支給要綱
終期設定	有	無	年度	法令等	（平成20年4月1日改正）
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	在宅のねたきり高齢者に出張理美容のサービス券を支給し、調髪・顔そり・カット等の理美容サービスを提供することにより、高齢者の清潔と健康の保持に資する。				
対象者等	区内に住所を有する在宅高齢者で、要介護4又は5と認定された者。その他、区長が認めた者。				
内容	理容及び美容組合が利用者と日程調整のうえ自宅へ出張して理美容のサービスを提供する。 年間支給枚数 (1)当該年度の4月から5月までの認定者 6枚(5月支給) (2)当該年度の6月から7月までの認定者 5枚 (3)当該年度の8月から9月までの認定者 4枚 (4)当該年度の10月から11月までの認定者 3枚 (5)当該年度の12月から1月までの認定者 2枚 (6)当該年度の2月から3月までの認定者 1枚 支給方法：継続利用者には5月に民生委員を通じて配付。新規決定者は、高齢者福祉課で配付する。 経費内訳：一枚の委託料 2,950円（出張料：1,000円、理美容代：1,900円、手数料経費：50円） （自己負担金1,900円）				
経過	昭和51年度 事業開始。支給枚数3枚。平成4年度 支給枚数6枚。 平成12年度 介護保険制度の実施に伴い巡回入浴時の同時理髪を廃止。 1回当たり1,900円（非課税者半額）を自己負担とした。 平成15年度 老人福祉手当の廃止に伴い、自己負担金を一律1,900円とした。				
必要性	在宅のねたきり高齢者が快適な生活を保持する一助として、理美容の機会を提供するものである。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 社会福祉協議会へ委託し、理・美容生活衛生同業組合荒川支部に再委託して実施している。				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
		予算額	3,293	4,266	4,042	3,618	3,088	2,711
	決算額（20年度は見込み）	3,293	2,618	2,496	2,192	2,205	2,139	2,354
	人件費				1,034	1,025	1,452	
	【事務分担当】（%）				12	12	17	
	合計（+）	3,293	2,618	2,496	3,226	3,230	3,591	2,354
	国（特定財源）							
	都（特定財源）	2,861	2,127	1,973				
	その他（特定財源）							
	一般財源	432	491	523	3,226	3,230	3,591	2,354
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	対象者(7月末現在)	1,396	1,419	1,544	1,801	1,823	1,920	-
	希望者	289	300	296	275	284	221	-
	支給枚数	1,471	1,626	1,648	1,504	1,523	1,326	-
	利用枚数	787	673	634	549	572	566	673

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	事業費		1,687	事業費	1,670	事業費	1,986
	事務費		115	事務費	115	事務費	61
	管理費		403	管理費	354	管理費	307

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	サービス券支給枚数	1,504	1,523	1,326	-	-	
	サービス券利用枚数	549	572	566	673	-	

（問題点・課題）	<p>15年度に利用者負担を見直した影響からか、15年度の利用実績は対前年度比で14%減となった。平成16年度以降も利用実績が減少傾向にある。</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 21 区                      未実施 1 区）</p> <p style="text-align: center;">台東区</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
理・美容生活衛生同業組合荒川支部を通じ、加入店にできるだけ多くの参加協力を依頼し、利用者の利便を図る。	利用率の向上が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	実績を踏まえて、現状の規模で実施する。

（状況）	
------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高齢者紙おむつ購入助成事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山田正枝	内線	2678
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	紙おむつ購入費助成事業費（16-10-18-01） 家族支援事業費（53-70-60-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	52年度	根拠法令等	紙おむつ購入費助成事業実施要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	寝たきり高齢者の紙おむつ購入費の一部を助成することにより、寝たきり高齢者や介護にあたる家族の経済的負担を軽減し、もって高齢者福祉の増進を図る。				
対象者等	概ね65歳以上で 要介護4及び5の方、 要介護1から3で認知症があり紙おむつの必要な方（介護保険適用施設入所の方は除く）、身体障害者手帳1・2級の方、愛の手帳1・2度の方				
内容	<p>【紙おむつ購入券】 利用者に紙おむつ購入券を支給（郵送で送付3カ月分前渡し）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月6,000円（2,000円券×3枚）、ただし1割自己負担のため、実際には5,400円を助成。</li> <li>・区と契約している薬業共同組合又は介護サービス事業者組合加盟の区内薬局や介護用品販売所で使用可</li> </ul> <p>【紙おむつ代助成】入院中で、病院が紙おむつを指定し、持込ができない場合に、病院で請求された紙おむつ代のうち、月額6,000円（1割自己負担）を上限に助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4ヶ月ごとに利用者に「請求の案内はがき」を送付。</li> <li>・利用者は指定された期間内に支払った紙おむつ代の領収書を持参し、区窓口で請求手続きをする。</li> </ul>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成4年度から所得制限を撤廃。また、現物支給ができない対象者に費用助成を開始（限度額8,000円）</li> <li>・平成12年度から介護保険制度との整合性を図るため、自己負担金を導入した。また、紙おむつ購入券方式を採用し、近隣商店での自由購入を可能とした。</li> <li>・平成13年1月から入院中の方に限り、介護認定がなされていなくても、該当の判定をすることとした。</li> <li>・平成15年7月1日から訪問介護の自己負担金の軽減措置が3%から6%に変更される措置にあわせて、平成11年度以前からの継続利用者についての利用者負担についても3%から6%に変更した。</li> <li>・平成17年度より、11年度以前からの継続利用者についての利用者負担軽減措置を廃止した。</li> <li>・平成18年度より、利用者が65歳以上で要介護4以上、更に世帯非課税の方については、介護保険会計の地域支援事業費より支払う。それ以外の利用者については一般会計より支払われる。</li> </ul>				
必要性	高齢者や介護者の経済的支援のために必要性が高い。				
実施方法	<p>（一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>購入券 3ヶ月ごとに郵送（前渡し） 薬業共同組合・介護サービス事業者組合に紙おむつ給付業務を委託し、最寄りの薬局・事業所で紙おむつと引き換える。</p> <p>現金支給 4ヶ月ごとに振込み（後払い）</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	52,396	59,192	61,610	72,333	70,922	75,181	74,964	
決算額（20年度は見込み）	52,392	58,996	61,605	63,655	66,395	74,896	74,964	
人件費				6,206	5,722	4,868		
【事務分担量】（%）				132	67	57		
合計（+）	52,392	58,996	61,605	69,861	72,117	79,764	74,964	
国（特定財源）					4,703	4,282	4,650	
都（特定財源）	4,033	4,253	3,510	3,231	2,366	2,141	2,325	
その他（特定財源）					4,617	4,152	4,506	
一般財源	48,359	54,743	58,095	66,630	60,431	69,189	63,483	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	購入券利用者数(実際の使用数)	7,829	9,159	9,664	9,778	9,840	11,209	10,896
	おむつ代助成件数	1,227	1,215	1,524	1,993	1,680	2,647	2,952
	計	9,056	10,374	11,188	11,771	11,520	13,856	13,848
	利用者数(4月1日現在)	1,308	1,327	1,440	1,400	1,505	1,796	-

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
一般需用費	紙おむつ購入券用紙（事前押印）		137	紙おむつ購入券用紙（事前押印）	70	紙おむつ購入券用紙（事前押印）	184
	紙おむつ購入助成費	54,572		紙おむつ購入助成費	64,251	紙おむつ購入助成費	63,310
扶助費	〃（介護会計）	11,686		〃（介護会計）	10,575	〃（介護会計）	11,470

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値（22年度）	
標	購入券延べ利用者数	9,778	9,840	11,209	10,896	-	
	おむつ代助成延べ件数	1,993	1,680	2,647	2,952	-	
	利用者数(4月1日現在)	1,400	1,505	1,796	-	-	

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が引き換え可能なおむつの種類を増やしていくよう、引き続き事業者と協議していく。</li> <li>・おむつ利用者は年々増加していく一方である。</li> </ul>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
他区の状況、区民の利用状況等を調査し、現在の実施方法の見直しを行う。	内部事務の効率化

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	高齢者及び介護者に対する経済的な負担軽減効果は大きい。

議会議事録（要旨）	平成12年三定 12年度からの事業内容変更についての区の評価
-----------	--------------------------------



# 事務事業分析シート(平成20年度)

No1

事務事業名	高齢者住宅改修給付事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	板倉久江	内線	2678
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(20年度)	高齢者住宅改修給付事業費(16-10-24-01) (地域支援事業費)その他事業(53-77-50-01)				
事務事業の種類	新規事業 (20年度 19年度)		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	元年度	根拠	荒川区高齢者住宅改修給付事業実施要綱
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	介護保険対象外となった高齢者について、予防給付としての住宅改修を実施するとともに、要介護・要支援の高齢者についても、介護保険支給対象外の改修種目の給付を行なうことにより、高齢者の在宅生活の利便向上と福祉の増進を図る。				
対象者等	1. 住宅改修予防給付 荒川区内に居住する住宅を有すること 65歳以上の高齢者で、住宅の改修が必要と認められる者 要介護認定の結果が非該当となった者 生計中心者の前年所得が585万2千円以下であること。但し、扶養家族のある場合は1人につき38万円を加算する。 ( は住宅改修予防・住宅設備改修各給付共通) 2. 住宅設備改修給付 荒川区内に居住する住宅を有すること 65歳以上の高齢者で、住宅設備の改修が必要と認められる者 要介護認定の結果、要支援又は要介護となった者 3. 費用負担 助成基準額を超える額と助成基準額の10%は自己負担。(生活保護受給者は自己負担分を免除)				
内容	1. 高齢者住宅改修予防給付 ( ~ 介護保険と同様の内容): 基準額20万円(介護保険と同額) 手すり取付 床段差解消 滑り防止・移動円滑化等の床材変更 引戸等への取替 洋式便器等への取替 その他付帯工事 2. 高齢者住宅設備改修給付 浴槽の取り替え及びこれに付帯して必要な給湯設備等の工事: 基準額 379千円 都と同額 流し、洗面台の取り替え及びこれに付帯して必要な給排水設備等の工事: 基準額 156千円 都と同額 便器の洋式化及びこれに付帯して必要な工事: 基準額 106千円 都と同額 3. 住宅改修事業者説明会の開催 改修事業者の知識・技能向上と区との連携強化のため区が主催 4. リフォーム相談員の報償費の支払い 改修事業の運営に当たり住宅状況に適した相談・助言を行なう 5. 老人性白内障特殊眼鏡等費用助成事業 開眼手術を受け当該特殊眼鏡等の購入に要した費用の助成。10年程実績無し				
経過	平成 元年度 荒川区高齢者住宅改修費助成事業として開始 種目: 浴室改善、便所改善 平成 3年度 玄関改善、台所改善、居室改善を種目追加 平成 5年度 階段昇降機を種目追加 平成 12年度 住宅改修が介護保険に移行実施されるため、予防給付・設備改修給付事業として再編実施 (対象は、介護保険非該当者ならびに介護保険給付外の部分)				
必要性	住宅改修を行うことにより、介護を受けながら住み続けられる住まいを確保できる。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 申請 訪問調査 工事計画書の提出 改修費助成決定 工事着工 工事完了 完了調査 助成金支出 ・助成金は給付券方式により助成し、利用者は自己負担及び助成基準額を超える額を施行業者に支払う。これにより、償還払い方式に比べて経済的負担の軽減を図っている。 ・同一改造工事に対し、申請場所が2ヶ所あること、給付方式が異なることで混雑が生じないよう、高齢者福祉課と介護保険課とで申請時の連絡調整、工事見積書の内容統一化、給付券の同時時期発行等を行っている。				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	32,798	31,234	33,722	17,796	17,774	21,412	17,724	
決算額(20年度は見込み)	21,042	30,540	33,067	17,431	8,837	21,412	17,724	
人件費				8,360	8,711	6,234		
【事務分担当量】(%)				97	102	73		
合計(+)	21,042	30,540	33,067	25,791	17,548	27,646	17,724	
国(特定財源)	0	0	0	0	673		489	
都(特定財源)	8,336	8,189	8,208	9,166	4,350	8,562	8,502	
その他(特定財源)	0	0	0	0	691		475	
一般財源	12,706	22,351	24,859	16,625	11,834	19,084	8,258	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	予防給付件数	3	9	6	1	2	9	6
	・浴室改修給付件数	26	35	28	43	12	46	31
	・流し・洗面台改修給付件数	4	1	5	2	0	1	2
	・便所改修給付件数	56	63	71	69	45	52	48
	・その他(階段昇降機)	10	15	18	-	-	-	-

# 事務事業分析シート(平成20年度)

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度(決算)		平成19年度(決算)		平成20年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
扶助費	住宅改修予防給付事業	住宅改修予防給付事業	152	住宅改修予防給付事業	1,092	住宅改修予防給付事業	1,080
		住宅設備改修給付事業	7,759	住宅設備改修給付事業	19,382	住宅設備改修給付事業	15,435
	報償費	専門相談員の報償費	900	専門相談員の報償費	918	専門相談員の報償費	1,163
		住宅改修事業者連絡会の謝礼	26	住宅改修事業者連絡会の謝礼	20	住宅改修事業者連絡会の謝礼	46

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
標	予防給付件数	1	2	9	6	20	
	設備改修件数	114	57	99	81	130	

(問題点・課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給付要件に要介護認定が必要なこともあり、相談から工事着工までの待機期間を短縮する必要がある。</li> <li>・要介護認定の結果が出た時点で速やかに住宅改修ができるよう、急ぐ場合要介護認定申請後に事前調査を行っている。原則として在宅生活での改修申請であるが、退院が明らかと判断出来る時は入院中でも申請を受けている。生活環境整備が退院に間にあうようにする必要がある。</li> <li>・非該当者を対象にした予防給付を積極的に活用し、生活機能の低下している人や、将来的に介護が必要となる可能性が高い人が、生活動作の自立を継続出来るようにする必要がある。</li> <li>・住宅改修と福祉用具を併用する場合があります、用具の選定・使用について相談・フォロー機能の向上(地域ケアマネジメント支援:地域包括支援センターの相談機能アップのため、住宅改修・住宅改修関連福祉用具の相談及び研修)を図る必要がある。</li> <li>・自立度を客観的に把握するため完了調査時に改修要点を具体化した質問表を作成する。</li> </ul>
他区の実況	<p style="text-align: center;">(実施 22 区 未実施 区)</p> <p>各区とも従前の高齢者住宅改造事業を継続する形で実施している</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
介護保険の住宅改修と高齢者住宅設備改修費助成事業との併用を活用する一方、介護保険の認定を受けなくても「特定高齢者」等に選定された者より申請があった場合、需要が多い手すりに限定し上限額を設定する等、高齢者福祉課の独自性を出す必要がある。	体調不良になった利用者にとって、住宅改修による日常生活の負担の軽減は、自立と意欲の向上に繋がるとともに、家族や介護者の精神的・肉体的負担の軽減も期待できる。
改修要点を具体化した質問表の作成	改修工事前後の具体的な改善点を明確にし、サービス効果の検証資料とする。将来はアドバイザー等の基礎資料とする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	高齢者の在宅生活を支援するため、事業の充実を図る必要がある。

(状況)	<p>13年一定 住宅改修事業者への適切な指導・助言と研修会の開催について</p> <p>14年一定 住宅改修事業者への事業PRについて</p>
------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	寝たきり高齢者寝具水洗乾燥消毒事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山田正枝	内線	2678
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	寝たきり高齢者寝具水洗乾燥消毒事業費（16-10-30-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	47年度	根拠法令等	荒川区寝たきり高齢者寝具乾燥消毒事業要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	長年にわたり臥床している高齢者に対し、寝具の水洗乾燥消毒のサービスを提供することによって、環境衛生を保持し、福祉の増進を図る。				
対象者等	65歳以上の在宅寝たきり高齢者で介護保険の要介護度が4及び5の者で寝具乾燥消毒が必要な者。				
内容	・乾燥消毒 11回/年 水洗い 1回/年 【1回の実施内容】敷布団、掛布団、毛布1枚、枕 1個 <自己負担金> 本事業に要する費用の利用者の負担は10%とする。但し、生活保護受給者は無料とする。 水洗いについては10%負担で1,123円（税込）また、乾燥消毒については10%負担で241円（税込）となる。				
経過	・平成4年度 ドライクリーニングから水洗いへの変更 ・平成11年度 敷布団・掛け布団の消毒の枚数を各2枚から各1枚に変更 ・平成12年度 自己負担金導入 ・平成15年7月1日 訪問介護の自己負担金の軽減措置が3%から6%に変更されることに伴い、平成11年度以前からの継続利用者についての利用者負担（原則10%）の軽減についても3%から6%に変更 ・平成17年度から継続利用者負担軽減措置を廃止				
必要性	寝たきり高齢者の環境衛生及び健康の保持を図ることができる。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 申請に基づき、実態調査を行った上で、業者に事業を委託する。 委託先 サンライズセンター株式会社				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	102	101	99	71	98	158	208	
決算額（20年度は見込み）	59	57	62	38	48	157	208	
人件費				603	598	1,025		
【事務分担量】（%）				7	7	12		
合計（+）	59	57	62	641	646	1,182	208	
国（特定財源）								
都（特定財源）	0	71	197					
その他（特定財源）								
一般財源	59	-14	-135	641	646	1,182	208	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	対象者数（人）	7	5	5	4	4	10	9

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料	寝具水洗・乾燥消毒委託	48	寝具水洗・乾燥消毒委託	157	寝具水洗・乾燥消毒委託	208

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	対象者数(年度末現員)	4	4	10	9	-	

（問題点・課題分析）	<p>・要介護度が4・5で、布団を干す場所がなく、干してくれる介護者がいないものに対象をしぼっているため、利用者が少ない</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	<p>区報、HPを通じた事業のPRに努める。 また、介護事業者へ事業の説明を行う。</p>	<p>要件を充たしている対象者への支給のもれを防ぐ。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	<p>対象者が少ないため、現状の規模で実施する。</p>

議会議決要旨	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	通所サービス利用者負担軽減事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	板倉久江	内線	2678
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	通所サービス利用者負担軽減費(16-10-85-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠	荒川区通所サービス利用者負担額（食費）軽減
終期設定	有	無	20年度	法令等	補助金交付要綱
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	介護保険の被保険者が通所介護等を利用した場合、平成17年10月1日より介護保険の保険給付対象外となった食費について、その費用の一部を補助することにより、被保険者の負担の激変緩和及び介護度の重篤化予防を図る。				
対象者等	介護保険料の賦課段階第1段階から第3段階までに該当する被保険者で、指定介護通所事業所等において、食事の提供を受ける者。ただし、生計困難者に対する利用者負担軽減措置を受けている者は除く。				
内容	<p>通所介護、通所リハビリテーション等の通所系サービスの提供事業所において平成17年10月1日改正前に保険給付対象となっていた食事を対象とする。</p> <p>1 申請手続 補助金の交付を受けようとする者は認定申請書を区に提出する。（補助金の受領を事業所に委任する場合は、代理受領委任状を区に提出し、事業所は代理受領の申出書を提出する。）</p> <p>2 軽減方法 事業者は認定利用者の補助金額を差し引いた食費を徴収。1食の補助金額については次のとおりである。                  指定介護事業所等において、調理加工を行なった場合の食費が                  383円以上509円未満の場合、当該食費の額から382円を減じた額。                  509円以上の場合、当該食費の額に4分の1を乗じた額（当該額に1円未満の端数があるときは、これを切り捨てる。）とし、189円を上限とする。</p> <p>3 補助金請求方法 事業者は1月分の軽減状況を取りまとめて、翌月末までに補助金請求書を提出する。（3月は同月末）</p>				
経過	介護保険法改正により、平成17年10月1日から居住費・食費（調理費）が保険給付外となった。低所得者に対する配慮として補足給付が創設されたが、通所系サービスの利用者については対象外とされていることに伴い同日より実施。 6カ月の時限事業であったが、期限延長（平成21年3月31日終了予定）。				
必要性	食費（調理費）が保険給付の対象外となり、これまでの負担と比べると約2倍の負担となる。この急激な負担増を緩和することが、利用率の低下による介護度の重度化を防ぐ観点から必要。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 対象となる食事を提供している事業所において認定者の軽減を請求時に行い、事業所に代理受領として支払う。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	-	-	-	5,203	13,224	11,052	10,484	
決算額（20年度は見込み）				5,176	9,668	11,052	10,484	
人件費				4,137	2,306	3,587		
【事務分担量】（%）				48	27	42		
合計（+）	0	0	0	9,313	11,974	14,639	10,484	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	9,313	11,974	14,639	10,484	
実績の推移								
事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
補助食数（延べ）				33,075食	61,692食	75,427食	67,200食	
補助認定者数				900	1,045	1,127	-	
対象施設数				18	22	36	-	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	補助金額	9,668	補助金額	11,052	補助金額	10,484

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	補助食数	33,075	61,692	75,427	67,200	-	延べ補助食数
	補助認定者数	900	1,045	1,127	-	-	
	対象施設数	18	22	36	-	-	

（問題点・課題）	<p>本事業は当初17年10月から18年3月までの時限事業として開始されたが、さらに3ヵ年期限が延長され、20年度までの時限事業となった。21年度以降本事業をどうするかを検討が必要である。</p>
他区の実施状況	<p style="text-align: center;">（実施 3 区                      未実施 19 区）</p> <p>千代田区・港区・渋谷区は平成17年10月1日改正から実施。うち千代田区は平成18年度をもって事業終了。港区・渋谷区は平成20年度継続実施。新宿区は平成18年4月より軽減開始し、平成19年度をもって事業終了予定だったが、継続。平成20年度は、申請のあった事業所に対して一律上限200円、満たない場合は実費補助と当面継続する。</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	時限事業であるため、現状の規模で実施する。

（状況）	
------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ひと声運動事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ひと声運動事業費(16-10-42-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	47年度	根拠法令等	ひとり暮らし高齢者ひと声運動事業実施要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	民生委員が、年2回、ひとり暮らし高齢者宅を訪問し、種々の相談に応じ、心の交流を図ることで、引きこもりの解消や孤独感を軽減し、また在宅生活に安心感を与えて、ひとり暮らし生活の安定に寄与する。				
対象者等	満65歳以上で「ひとり暮らし高齢者届」の届出者数				
内容	<p><b>【実施方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひとり暮らし高齢者届」の対象者は、65歳以上で、近隣（徒歩5分以内）に2親等以内の血族がいない者である。登録時に民生委員が調査している。</li> <li>・区に「ひとり暮らし高齢者届」を提出し、登録された者について名簿を作成し、社会福祉協議会へ連絡する。社会福祉協議会は、新規登録者で希望する者に民生委員を通じて緊急ホイッスル（@1,200円）を配布する。（新規登録者の名簿は毎月区で作成する。）社会福祉協議会で「ひとり暮らし高齢者カード」を作成し、民生委員の訪問時の聞き取りの記録等を保管する。</li> <li>・民生委員がひとり暮らし高齢者宅を年2回（7月、2月）訪問する。</li> <li>・70歳以上（非課税者）を対象にふれあい入浴券（区内公衆浴場利用券）支給事業を実施 支給時期及び枚数：4月該当者30枚・9月該当者15枚</li> </ul> <p><b>【平成19年度実施状況】</b></p> <p>7月期：訪問時に、社協より「災害時アンケート」・「絵カード」（社協独自事業）配布 2月期：「ひと声だより」を配布</p>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和47年度 事業開始。</li> <li>・平成8年度 防災用緊急ホイッスル（@1,115円）を支給。</li> <li>・平成11年度 携帯ブザー（@1,400円）の支給を廃止。</li> <li>・平成13年度 防災用緊急ホイッスルを希望者のみ支給。</li> <li>・平成14年度 訪問時の配付物を「ひとり暮らし高齢者の方の便利帳」「絵カード」等とする。</li> </ul>				
必要性	ひとり暮らしの高齢者宅を民生委員が訪問し、心の交流を図ることにより健康で明るい生活の実現と孤独感の解消につながるなど必要性は高い。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 社会福祉協議会委託				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	216	289	315	328	307	296	296	
決算額（20年度は見込み）	216	216	306	218	249	65	296	
人件費				1,034	1,025	1,452		
【事務分担量】（%）				12	12	17		
合計（+）	216	216	306	1,252	1,274	1,517	296	
国（特定財源）								
都（特定財源）	107	143	153	109	125	147	147	
その他（特定財源）								
一般財源	109	73	153	1,143	1,149	1,370	149	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	7月対象者	2,150	2,204	2,190	2,103	2,110	2,116	-
	2月対象者	2,162	2,102	2,199	2,139	2,111	2,093	-
	緊急ホイッスル	164	150	141	130	116	125	120

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
一般需用費	消耗品費		59	消耗品費	13	消耗品費	100
	事業費		139	事業費	0	事業費	144
	委託料		26	事務費	26	事務費	26
	管理費		25	管理費	26	管理費	26

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	一人暮らし届出者数	2,131	2,116	2,091	2,084	2500	} 20年度は4月末の届出
	65歳以上人口	40,221	41,224	41,224	42,193	-	
	届出者数構成比	5.30%	5.13%	5.08%	4.94%	-	届出者数 ÷ 65歳以上人口 × 100

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひとり暮らし高齢者届」を提出している者だけをこの事業は把握しているが、今後、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯の実態を把握し高齢者の生活見守り事業として拡大していく必要がある。</li> <li>緊急時の対策として「緊急ホイッスル」を希望者に支給しているが、高齢者の体力的な面、又現在の時代の流れに適しているか見直す時期である。</li> </ul>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 16 区                      未実施 6 区）</p> <p>ふれあい訪問、みまもりネットワークなど</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
「ひとり暮らし高齢者届」は、任意の届出であり、ひとり暮らし高齢者の要件に該当していても、届出を提出していない者がかなりいるものと思われるため、民生委員協議会に協力を依頼し、届出者の拡大を図る。	ひとり暮らし高齢者等の実態を広く把握することにより、見守り活動の充実を図ることができる。
「緊急ホイッスル」については、現品よりも効果的な代替品があるか調査する。	緊急時に高齢者の援護を効果的に行うことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	ひとり暮らし高齢者の増加を踏まえ、実態把握に努め、事業の拡充を図る必要がある。

議会議決要旨	<p>14年二定 高齢者施策の充実について</p> <p>虚弱な高齢者が地域との繋がりを絶やさないようにするための施策について</p>
--------	---



# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	ふれあい入浴事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	ふれあい入浴事業費(16-10-48-01)				
事務事業の種類	新規事業	( 20年度 19年度 )	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	57年度	根拠法令等	ひとり暮らし高齢者無料入浴券支給要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	区内に住所を有するひとり暮らし高齢者に公衆浴場入浴券を支給することにより、地域社会との交流を促進し、閉じこもりや孤独感の解消と健康の維持・増進に資する。				
対象者等	満70歳以上の「ひとり暮らし高齢者届」を受理された住民税非課税の高齢者で、入浴券支給を希望する者。 ただし、高齢者住宅に入居している者と生活保護受給者を除く。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川区社会福祉協議会への委託により実施（東京都公衆浴場組合荒川支部に再委託）</li> <li>・民生委員がひとり暮らし高齢者宅を訪問し、入浴券を配布して安否確認と生活相談を行う。</li> <li>・入浴券は、4月1日対象者に30枚を支給し、4月2日から8月31日までの新規登録者は、9月に15枚支給。</li> <li>・4月1日、9月1日現在で対象者名簿を区が作成し、社会福祉協議会に通知する。社会福祉協議会は、「ふれあい入浴券」（@435円）を発行し、民生委員経由で対象者に配布する。</li> <li>・なお、区境地区（南千住3・4・8丁目、西日暮里3丁目）の対象者に対しては、東京都共通入浴券（@430円）を支給する。</li> </ul>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成10年度 所得制限（前年度住民税非課税者）と年齢引き上げ（65歳から70歳へ）。</li> <li>・平成13年度 東京都共通入浴券（有効期間が7月～）から荒川区発行の「ふれあい入浴券」（有効期間4月～3月）とし、買取方式から精算方式に変更。4月から配布可能となった。</li> <li>・平成14年度 該当者には、4月期に1年間分（30枚）を配付。</li> </ul>				
必要性	地域社会との交流促進、閉じこもりや孤独感の解消及び健康の維持・増進のみならず、介護予防の一助としての役割を果たしている。				
実施方法	（3委託） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 社会福祉協議会へ委託し、東京都公衆浴場組合荒川支部に再委託している。 （平成19年度委託料14,854千円）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	16,530	17,153	16,506	17,683	16,406	18,017	16,175	
決算額（20年度は見込み）	16,530	16,946	16,203	16,116	16,278	14,854	16,175	
人件費				1,034	1,025	1,452		
【事務分担当量】（%）				12	12	15		
合計（+）	16,530	16,946	16,203	17,150	17,303	16,306	16,175	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	16,530	16,946	16,203	17,150	17,303	16,306	16,175	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	配付枚数	46,725	49,605	48,030	45,660	40,110	37,800	36,186
	利用枚数(20年度は見込み)	34,717	35,591	34,454	33,848	32,705	33,510	32,162
	受領者数(20年度は見込み)	1,402	1,484	1,409	1,382	1,368	1,158	1,229
	対象者数	1,595	1,702	1,703	1,634	1,482	1,301	1,365

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
委託料	事業費		14,007	事業費	12,370	事業費	13,946
	事務費		131	事務費	134	事務費	119
	管理費		2,140	管理費	2,350	管理費	2,110

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	入浴券利用枚数	33,848	32,705	33,510	32,162	-	19年度3月末日
	支給者数	1,382	1,368	1,158	1,229	-	19年度3月末日
	利用率（利用枚数 ÷ 配布枚数）	74.13%	81.54%	84.86%	88.88%	-	19年度

（問題点・課題）	（指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浴場組合から、枚数の増加及び事業継続について、毎年、要望がある。</li> <li>・無料入浴券方式の見直し 無料開放デイ方式等の検討(年2・3回浴場を借り上げて開放するなど)</li> <li>・燃料費の高騰による料金改定（平成20年6月15日より新料金450円）</li> </ul>
他区の実況		（ 実施      22      区                      未実施                      区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
高齢者の閉じこもり対策としての公衆浴場の活用策を浴場組合と協議する。	本事業を公衆衛生対策としてだけでなく、高齢者の健康増進、社会参加の促進という視点からの拡充が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	ひとり暮らし高齢者対策としては、現状の規模で実施する。

況議（会要質旨問状）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14年二定 ふれあい入浴デーの実施について</li> <li>・15年一定 半額入浴カードの発行について</li> <li>・16年一定 半額入浴カードの発行について</li> </ul>
------------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高齢者入浴事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	高齢者入浴事業（16-10-95-01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	20 年度	根拠	荒川区高齢者入浴事業実施要綱	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	満70歳以上の住民税非課税の高齢者が、毎週1回、区内の公衆浴場を低廉な価格で利用できることとすることにより、高齢者の健康の保持・増進を図り、あわせて地域におけるふれあい及び公衆浴場の利用を促進する。				
対象者等	区内在住で在宅の満70歳以上の前年度住民税非課税の者 （対象者数見込 18.7.1現在 70歳以上数28,577：非課税者数19,021(66.6%) 19.10.1現在 70歳以上数29,540：非課税者数19,700(66.6%) 20.6.1現在 70歳以上数30,127：非課税者数20,064(66.6%)）				
内容	1 実施回数：平均週1回（年間52回）*ただし、20年度については5月から事業開始のため、48回。 なお、年度内の転入・年齢到達者等については、申請日（誕生日）の翌週から当該年度末まで利用可能とする。この場合の利用回数は、基準日（月曜日）の年度内残日数とする。 2 実施施設：区内42公衆浴場（平成20年5月1日現在） 3 本人負担：200円（区負担230円） 4 委託先：東京都公衆浴場業生活衛生同業組合荒川支部 5 実施方法：本人若しくは家族の申請に基づき「入浴カード」を発行し、本人が入浴カードを公衆浴場に持参・提示し、本人負担金を支払うことにより入浴できるものとする。				
経過	57年度～ 満70歳以上の「ひとり暮らし高齢者届」を受取された前年度住民税非課税の高齢者を対象に「ふれあい入浴券」を配付 20年度～ ふれあい入浴事業に加え、新たに高齢者入浴事業を実施				
必要性	対象者の範囲をひとり暮らし高齢者から拡大することにより、より一層、高齢者の健康の保持・増進、地域におけるふれあい及び公衆浴場の利用促進を図ることができる。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 1 年度当初に本人若しくは家族が高齢者入浴事業の利用申請 2 所得制限等の要件を確認のうえ、高齢者入浴カードを交付（交付決定を兼ねる） 3 高齢者が公衆浴場を利用する際、入浴カードに貼付されているシール1枚と本人負担金を支払う 4 事業者は、指定の台紙にシールを貼って管理し、年3回（8・12・4月）、浴場組合に実績報告 5 浴場組合は、各実績報告を取りまとめのうえ、区に委託料を請求 6 区は、実績報告を確認・審査のうえ、浴場組合に委託料を支払う				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	-	-	-	-	-	-	21,708	
決算額(20年度は見込み)							21,708	
人件費								
【事務分担量】(%)								
合計(+)	0	0	0	0	0	0	21,708	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	0	21,708	
実績の推移								
事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
対象者数							19,700	
申請者数(平成20年5月30日現在)							1,399	
利用数(延べ回数)							87,360	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	消耗品費					宛名ラベル	155
	印刷製本費					入浴券等	260
	役務費					通知郵送料	1,000
	委託料					入浴委託等	20,293

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	申請者数	-	-	-	1,399		平成20年6月1日現在
	利用者数	-	-	-			
		-	-	-			

（問題点・課題）	燃料費高騰による料金改定（平成20年6月15日より 新料金450円） 申請者数 1,399名（6月1日現在）
他区の実施状況	（実施 22 区 未実施 区） 文京区「シニア入浴デー」（60歳以上、毎週火曜日、自己負担100円）、台東区「高齢者入浴券」（65歳以上年間20枚、自己負担50円）、北区「高齢者ヘルシー入浴補助券」（70歳以上、年間20枚、自己負担50円）など。

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
-	重点的に推進	高齢者の閉じこもり防止に一定の効果が期待でき、事業規模については検討が必要である。

況議（要旨）	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	緊急通報システム事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	板垣洋子	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	緊急通報システム事業費(16-10-54-01)				
事務事業の種類	新規事業	（ 20年度 19年度 ）		建設事業	それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	元年度	根拠法令等	荒川区高齢者緊急通報システム事業運営要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	慢性疾患があるなど、日常生活を営む上で注意を要する状態にあるひとり暮らし高齢者等の生活の安全を確保し、もって在宅高齢者の福祉の増進を図る。				
対象者等	原則として65歳以上のひとり暮らし及び夫婦等の高齢者世帯であって、慢性疾患があるなど日常生活を営む上で注意を要する状態にある者。（日中独居、夜間独居可） なお、申請に際して、原則として3名の緊急通報協力員（近隣住民、民生委員等）が必要である。				
内容	ひとり暮らし高齢者等が家庭内で急病になった時、あるいは突発的な事故で動けなくなった場合に、システム機器からの発信（機器の押しボタン又はペンダントを押すこと）によって、東京消防庁へ通報される。消防庁から利用者宅に確認の電話が入るとともに、必要に応じて（利用者が電話に出られないなど緊急事態が予想される場合など）救急車の出動や緊急協力員が消防庁からの連絡により訪問し、安否確認や消防庁への通報・救助協力などを行う。 新規設置経費33,030円、住民税課税者は3,290円の費用負担有				
経過	○平成6年度 費用負担撤廃（無線ペンダントの費用を階層別に負担） ○平成10年11月の機器更新時から生活防水にする。 ○平成11年7月より予算枠（年間配置台数）を廃止し、必要に応じて設置することとした。 ○平成12年度 費用負担（住民税課税者、設置費用の1割）を導入 ○平成13年度 協力員に対する活動謝礼を活動期間6ヶ月未満の者は3,000円、6ヶ月以上の者は6,000円相当の区内共通お買い物券に変更（12年度までは月額1,000円を3ヶ月ごとに協力員の口座に振込。） ○平成14年度 緊急通報協力員連絡会を開催し、活動謝礼の交付と消防署員による講義を行っている。				
必要性	虚弱な高齢者の在宅支援・不安解消を目的とした事業であり、必要性は高い。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 申請を受け、実態調査を行った上で設置が決定される。消防庁に(決定)通知するとともに業者に設置を委託する。 緊急通報システム委託 岩通システムソリューション(株)（平成19年度 15,807千円）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	18,726	16,076	16,070	16,796	18,494	19,216	18,943	
決算額（20年度は見込み）	14,479	14,134	15,043	16,039	16,849	18,969	18,943	
人件費				2,327	2,306	1,879		
【事務分担量】（%）				27	27	22		
合計（+）	14,479	14,134	15,043	18,366	19,155	20,848	18,943	
国（特定財源）								
都（特定財源）	6,478	8,502	9,663	3,213	3,647	4,624	4,799	
その他（特定財源）	99	47	186	72	49	154	66	
一般財源	7,902	5,585	5,194	15,081	15,459	16,070	14,078	
実績の推移	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
設置台数(新規・更新)	52	72	67	80	83	83	61	
稼働台数	372	389	466	477	543	598	550	
緊急通報協力員数				827	833	888	-	
// 内謝礼対象者数(20年度は予算)				509	517	521	580	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	協力員謝礼等	3,046	協力員謝礼等	3,088	協力員謝礼等	3,471
	委託料	システム稼働料等	13,783	システム稼働料等	15,807	システム稼働料等	15,344
	使用料及び賃借料	協力員連絡会会場使用料	20	協力員連絡会会場使用料	20	協力員連絡会会場使用料	35
	役務費			協力員連絡会通知用郵送料	54	協力員連絡会等通知用郵送料	93

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	年度別設置台数(新規・更新)	80	83	83	61	-	20年度は予算台数
	消防署通報件数	75	69	81	70	-	20年度は見込み
	協力員出動件数	36	34	51	40	-	20年度は見込み

(問題点・課題)	対象者の把握が困難である。また、協力員の確保が年々困難になっている。
他区の実況	（ 実施      22      区                      未実施                      区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
社会福祉協議会、民生委員協議会、地域包括支援センター等との連携を深め、対象者の把握に努める。	対象者の日常生活の安全が確保される。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯の安全を守るため、対象者の把握に努める必要がある。

況議(要旨)状	
---------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	火災安全システム事業		部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦	
			担当者名	板垣洋子	内線	2677	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	火災安全システム事業費(16-10-57-01)						
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	11年度	根拠法令等	荒川区高齢者火災安全システム事業要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]					
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]					
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]					
目的	寝たきり高齢者及びひとり暮らし高齢者の火災に対する生活の安全を確保し、もって在宅高齢者の福祉の増進を図る。						
対象者等	火災警報器・自動消火装置 65歳以上の寝たきり又はひとり暮らし高齢者（日中独居可） 電磁調理器・ガス安全システム 65歳以上で心身機能の低下に伴い、防火等の配慮が必要なひとり暮らし高齢者 自動通報システム 65歳以上で、発作を伴う心疾患や高血圧性疾患、認知症等により、防火の配慮が必要なひとり暮らし又は高齢者のみの世帯の高齢者						
内容	【住宅用防火機器等の給付】 火災警報器（1世帯2台まで）基準額15,500円      自動消火装置（1世帯2台まで）基準額28,700円 電磁調理器 基準額41,000円                                  ガス安全システム 基準額42,200円 住民税が課税されている者は機器の購入等に要する費用の10%を利用者の負担とする。 【自動通報システム】 17年度から認知症があるなど、特に火災発生のリスクが高いと思われる高齢者に対して、火災警報器が作動すると東京消防庁へ自動的に通報されるシステムを導入する。（専用通報器は緊急通報システムと兼用する。） 新規設置経費95,470円、住民税課税者は9,530円（取付た警報器の個数により負担額が異なる）の費用負担有						
経過	○平成11年度 費用負担を見直し（費用を階層別に負担） ○平成12年度 費用負担を見直し（住民税課税者、補助基準額の1割）電磁調理器を給付対象に加える。 ○平成17年度 東京消防庁への自動通報システムを導入する。						
必要性	虚弱な高齢者の安全・安心を確保し、在宅生活を支援する事業であり、必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ) 申請 訪問実態調査 決定						

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	435	197	325	1,485	1,361	944	1,163	
決算額（20年度は見込み）	187	121	276	555	458	461	1,163	
人件費	/	/	/	1,896	1,879	939	/	
【事務分担量】（%）	/	/	/	22	22	11	/	
合計（+）	187	121	276	2,451	2,337	1,400	1,163	
国（特定財源）								
都（特定財源）	151	79	183	299	0	0	160	
その他（特定財源）								
一般財源	36	42	93	2,152	2,337	1,400	1,003	
実績の推移								
事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
自動通報システム	-	-	-	0件	0件	0件	2件	
火災警報器	4件	1件	5件	8件	16件	13件	13件	
自動消火装置	2件	0件	3件	2件	1件	2件	2件	
ガス安全システム	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	
電磁調理器	3件	5件	8件	20件	12件	13件	17件	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	役務費	郵便料	0	郵便料	0		
	委託料	自動通報システム	0	自動通報システム	0	自動通報システム	540
	扶助費	住宅用防火機器等の給付	458	住宅用防火機器等の給付	461	住宅用防火機器等の給付	623

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	自動通報システム設置台数	0	0	0	2	-	
	防災機器等設置台数	30	29	28	33	-	

(問題点・課題)	自動通報システムが導入されたことに伴い、緊急通報協力員が火災安全システムにおける居住管理協力員を兼務することとなったため、事前の説明と協力依頼、初期消火の方法等の周知が必要
他区の実況	（ 実施      22      区                      未実施                      区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
民生委員、地域包括支援センター等の連携を深め、対象者の把握に努める。	対象者の日常生活の安全に資する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯の安全を守るため、対象者の把握に努める必要がある。

況議(要質問状)	
----------	--



# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	交通安全杖支給事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	新井玄二郎	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	交通安全杖支給事業費(16-10-60-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	54年度	根拠法令等	荒川区交通安全杖の支給等に関する事業実施要綱
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	杖を使用しなければ歩行困難な高齢者に対し、外出時の補助具となる交通安全杖を支給し、日常生活の便に供する。歩行杖は、管轄する民生委員を通じて配付する。				
対象者等	満65歳以上の前年度住民税非課税者で杖を使用しなければ歩行が困難な者。				
内容	[手続き] ・申請（地区担当民生委員及び高齢者福祉課） ・地区担当民生委員による調査（杖の必要性の確認） ・支給決定（決定通知） ・民生委員指定場所へ杖を配送 ・民生委員を通じて配付 [杖の種類及び価格] ・T字杖（ストラップ、反射シール付の一本杖、アルミ合金製パイプ黄色の焼付塗装仕上げ、重量280g～300gの範囲、ウレタン樹脂製の握り） ・Sサイズ（790 <sup>mm</sup> ×19 <sup>mm</sup> ）Lサイズ（850 <sup>mm</sup> ×19 <sup>mm</sup> ）Tサイズ（900 <sup>mm</sup> ×19 <sup>mm</sup> ） ・各サイズ同価格（2,625円）				
経過	・昭和54年1月に開始、平成元年4月に地域振興部から事業移管された。 ・平成10年度より所得制限（前年度住民税非課税者）を導入し、平成13年度以降は杖の再交付を廃止した。 ・平成14年度、交通災害共済の廃止に伴い、区独自の区民交通傷害保険（月加入）に加入する。 ・平成15年度、区独自の区民交通傷害保険（月加入）方式が廃止となり、保険の加入を廃止した。 ・平成16年度より区の直営となる。（平成元年4月から平成15年度までは、社会福祉協議会に委託）				
必要性	杖を使用しなければ歩行困難な者に対し外出時の歩行補助具となる杖を支給することにより、交通安全対策と介護予防の一助としての役割を果たしている。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	1,055	1,055	550	511	507	368	158	
決算額（20年度は見込み）	880	876	476	394	263	368	158	
人件費				1,034	1,025	854		
【事務分担量】（%）				12	12	10		
合計（+）	880	876	476	1,428	1,288	1,222	158	
国（特定財源）								
都（特定財源）	439	438	238	197	131	184	79	
その他（特定財源）								
一般財源	441	438	238	1,231	1,157	1,038	79	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
支給者数	246	277	171	121	105	121	120	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
一般需用費	交通安全杖	263	交通安全杖	368	交通安全杖	158	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	交通安全杖支給数	121	105	121	120	-	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（実施 4 区 未実施 18 区） シルバーカー・車椅子等の貸与を実施している区 11区

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	民生委員を通じて杖を交付しているが、民生委員に課税状況などを知られることに対する不満の声があるので、直接に受付及び交付することができるようにしたい。 （本人が窓口に来られた時に交付できない）	個人情報に接する機会を減らすことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	対象者の減少及び他区の実施状況等を踏まえ、現状の規模で実施する。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	特殊寝台貸与自己負担軽減事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	新井玄二郎	内線	2677
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	特殊寝台貸与自己負担軽減費(16-10-91-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠 法令等	荒川区軽度要介護者等寝台賃借料補助金交付要綱
終期設定	有	無	20年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	介護保険法の改正により、軽度の要介護者等に対する特殊寝台の貸与が保険給付等の対象外となったことに伴い、保険給付等として特殊寝台の貸与を受けていた者に対して、自己の負担により寝台の賃借を行う場合の費用の一部を補助することにより、負担の軽減を図るものとする。				
対象者等	要支援1・2又は要介護1の認定を受けた者で、次の要件の全てを満たす者 1 18年3月31日現在、介護保険給付等により特殊寝台の貸与を受けていた者 寝台の貸与が必要と区長が認めた者 介護保険の利用者負担段階が第1段階から第3段階までの者又は生活保護受給者				
内容	[賃借助成] 1 補助対象経費 18年10月1日以降に寝台を賃借する場合における自己負担費用 2 補助限度額 月額1,500円を上限とする。				
経過	本事業は、18年10月から20年3月までと、時限を定めて導入。なお、購入助成については、18年度のみの実施 [購入助成]（18年度のみ） 1 補助対象経費 18年4月1日から19年3月31日までの期間に支払った寝台購入費の1/2。ただし、生活保護受給者は10/10 2 補助限度額 27,000円。ただし、生活保護受給者は54,000円 助成対象者数等の現状を踏まえ、21年3月まで1年間延長				
必要性	法改正に伴う経過措置であり、一定の必要性はある。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	1 交付申請 補助金の交付を受けようとする者は、あらかじめ、認定申請書により、区長に申請する。 2 交付認定 区長は、申請内容の適否を審査し、適当であると認めるときは、認定通知書により申請者に通知する。 3 補助金の請求 申請者は、補助対象経費として支出した寝台賃借料3月分をまとめて、当該支出をした最終月の翌月末までに、請求書に領収書等を添えて補助金の請求を行う。 4 補助金の交付 区長は、請求内容を審査のうえ、速やかに補助金を交付する。				

		(単位：千円)						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額	-	-	-	-	1,172	945	738
	決算額(20年度は見込み)					1,172	497	738
	人件費					1,879	2,306	
	【事務分担量】(%)					22	27	
	合計(+)	0	0	0	0	3,051	2,803	738
	国(特定財源)							
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	3,051	2,803	738	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	対象者数					55	52	41
	利用者数					39	39	-
	賃借助成件数(延べ)					109	331	492
	購入助成件数(延べ)					33	-	-

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	寝台賃借料補助	1,172	寝台賃借料補助	497	寝台賃借料補助	738

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	補助件数（延べ）		109	331	492	-	

（問題点・課題）	介護保険法の改正に伴う経過措置であり、助成対象者数の推移等を踏まえたうえで、事業終了の時期を検討する必要がある。
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	時限事業であるため、現状の規模で実施する。

議（要旨）	
-------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	高齢者マッサージ事業 (在宅介護者マッサージ事業)	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	板垣洋子	内線	2677
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード(20年度)	家族介護支援事業費(53-70-60-01)				
事務事業の種類	新規事業	(20年度 19年度)	建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	15年度	根拠 法令等	なし
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価 事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	在宅で高齢者を介護している家族等の介護者に対し、無料マッサージ券を支給することによって、介護者の慰労及び心身のリフレッシュを図る。				
対象者等	要介護4・5の者を在宅で介護する者(主たる介護者)。ただし、長期入所・長期入院している者は除く。				
内容	在宅で高齢者を介護している家族等の介護者に対して無料マッサージ券(1人年2枚)を支給する。 (19年度は、12月に対象者あてに券を送付した。)				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅高齢者通所サービスセンターでリハビリを補完するものとして通所者を対象にマッサージを実施していたが、介護報酬による運営に移行したことにより在宅高齢者通所サービスセンターとしての事業が廃止されたため、15年度から区が引き継いで実施した。</li> <li>・16年度から社会福祉協議会で実施しているマッサージ事業と調整を図り利用者負担を導入。</li> <li>・17年度から、社会福祉協議会がひろば館を会場として実施しているマッサージ事業と現行の通所サービスセンターで実施しているマッサージ事業を廃止・再編する。</li> </ul>				
必要性	在宅で高齢者を介護している家族等の介護者の慰労及び心身のリフレッシュを図る。				
実施方法	(2-一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 荒川区マッサージ師会と契約を締結し(1回5,000円、実績払い)、利用者の希望に応じて自宅または施術所において、区が利用者に対して発行する無料マッサージ券(1人年2枚)と引き換えにマッサージを行う。				

予 算 ・ 決 算 額 等 の 推 移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額			1,794	4,209	4,208	4,210	4,208	
決算額(20年度は見込み)			1,318	445	2,042	1,392	4,208	
人件費				3,017	1,708	1,879		
【事務分担当】(%)				55	20	20		
合計(+)	0	0	1,318	3,462	3,750	3,271	4,208	
国(特定財源)						563	1,704	
都(特定財源)						281	852	
その他(特定財源)						548	1,652	
一般財源	0	0	1,318	3,462	3,750	1,879	0	
実績の推移	事項名							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
延べ利用者数			659	89	390	264	800	
対象者数			-	1,718	1,778	1,374	2,000	

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
一般需用費	消耗品		6	消耗品	5	消耗品	31
	印刷製本		0	印刷製本	0	マッサージ券等印刷製本	21
	郵便料		0	郵便料	67	郵便料	156
	マッサージ委託	1,950	マッサージ委託	1,320	マッサージ委託	4,000	
	使用料及び賃借料	寝具	86				

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	延べ利用者数	89	390	264	800	-	20年度は予算数

（問題点・課題分析）	平成17年度より、従来の方法とは異なるやり方をしたため、まだ定着していない。
他区の実況	（実施区 未実施区） 多くは老人福祉センター等で実施 目黒、豊島

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区報、HP等により工夫をし、広く周知を図る	より多くの在宅で高齢者を介護している家族等の介護者に対し心身のリフレッシュを図ることができる

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	現状の規模で実施する。

況議（要質問）	
---------	--

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	支えあい見守りあいネットワーク事業	部課名	福祉部高齢者福祉課	課長名	大内和彦
		担当者名	山内伸江	内線	2675
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	支えあい見守りあいネットワーク事業費(16-10-84-01)				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	13年度	根拠	荒川区高齢者等支えあい見守りあいネットワーク事業実施要綱
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	生涯健康都市[ ]			
	政策	高齢者や障がい者が安心して暮らせる社会の形成[02]			
	施策	高齢者の在宅生活の支援[02-03]			
目的	日常的に見守り援護を必要とするひとり暮らし等の高齢者を、地域の人々が中心となって支え合うネットワークを創り上げることで、地域社会の再生を目指すとともに、住み慣れた街でひとり暮らしの高齢者等が安心して、暮らせる支えあい見守りあいの仕組みづくりを行う。				
対象者等	75才以上の一人暮らしの高齢者(1,722名)、75才以上の高齢者のみ世帯(806名)、介護保険で要介護認定3～5の方(243名)、身体障害者手帳1～2級の方(808名)、愛の手帳1～4度の方(191名)、精神障害者保健福祉手帳1～2級の方(27名)、その他、日中一人暮らし高齢者等で介護や見守りが必要な方（年齢制限無し）(50名) 人数は20年4月1日現在				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会等の自主的な活動に役立ててもらうために、見守り対象者名簿を作成し、関係機関に配布する。（町会、民生委員、警察署、消防署、社会福祉協議会、地域包括支援センター）</li> <li>・地域団体による訪問見守り活動（訪問、相談、交流、その他）</li> <li>・小中学校での敬老奉仕活動の実践教育（ゴミだし・声かけ・清掃奉仕等）</li> <li>・地域の公的機関の見守りサービス（高齢者福祉課・障害者福祉課・消防署・警察・地域包括支援センター等）</li> <li>・上記対象者～については、名簿作成及びアンケート郵送事務を除き、障害者福祉課で対応</li> </ul>				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年度 実施協力を得た71町会について見守り希望のアンケートを実施。2,020名分の名簿を作成し提供</li> <li>・平成14年度 区内全域で見守り希望のアンケートを実施し（前年登録をした者を除く）関係機関に名簿を提供</li> <li>・全区調査の終了に伴い、15年度以降は、1月1日現在75歳になられた方で登録されていない方に対して調査を実施。あわせて、町会・民生委員からの報告等により適宜追加</li> </ul>				
必要性	区内に居住する一人暮らし高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう日常時及び災害時における地域の支えあい見守りあい活動を効果的に行えるよう支援していくことの必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 区内のひとり暮らし高齢者等に対して、年1回、ひとり暮らし高齢者等に対する「見守り希望」のアンケート調査を実施する。（毎年2月）[見守り希望届書送付 希望者は届書返送 登録] アンケート結果に基づき見守り対象者名簿を作成し、関係機関に配布する。（毎年6月～9月） 住基データの死亡・転出等の異動情報を反映させた最新版として作成・配布				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算額		723	275	165	174	164	148	159
決算額（20年度は見込み）		686	61	63	99	118	104	159
人件費					1,034	1,025	854	
【事務分担量】（%）					12	12	10	
合計（+）		686	61	63	1,133	1,143	958	159
国（特定財源）								
都（特定財源）		514	183	81	74			
その他（特定財源）								
一般財源		172	-122	-18	1,059	1,143	958	159
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	実施町会	116	116	117	117	117	118	118
	見守り希望登録者数	4,373	4,397	4,170	4,107	4,079	3,847	4,000

# 事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
			金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）
	一般需用費	消耗品費	33	消耗品費	34	消耗品費	35
	役務費	郵送料	85	郵送料	70	アンケート調査郵送料	124

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
	登録者数	4,107	4,079	3,847	4,000	4,000	

（問題点・課題）	<p>支えあい見守りあいの対象者が高齢者から障害者まで多様に分かれ、また活動を担う人も町会会員・民生委員・包括支援センター等と多様になっている。対象者名簿を活用し、各団体、グループ等がいかにか具体的な自主的活動に取り組むかが一番の課題となっている。</p> <p>自主的な取り組みがなければ、単に名簿を配付するだけの事業となってしまう。</p>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 8 区                      未実施 14 区）</p> <p>千代田、中央、新宿、豊島、品川、世田谷、板橋、足立</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
町会、民生委員など関係団体・機関などと自主活動に取り組むための意見交換の場を設ける。	自主活動に取り組む意識づくりの向上を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	ひとり暮らし高齢者等の把握に努め、事業の実効性を向上させる必要がある。

況議（要質問状）	
----------	--